

## 令和7年度 年間学習指導計画表【1年生】

教科	福祉	科目	社会福祉基礎	単位数	2 単位	学年	1	指導者	新田 剛司	
教科書	社会福祉基礎（実教出版）									
科目的目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉の理念と意義を理解し、社会構造やライフスタイルの変化をふまえた新しい福祉社会を実践する態度を育成する。【知】</li> <li>・社会福祉の歴史を理解し、現代社会における社会福祉の意義や役割を考える力を身に付ける。【思】</li> <li>・対人援助の技術や多様な社会的支援について理解し、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決する力を身に付ける。【態】</li> </ul>								
目標達成に向けての取り組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書での学習を基本として、「社会福祉基礎」の内容に基づいた介護を行う上で必要な、人間の多面的理解と尊厳の保持、自立・自律した生活を支える必要性について理解させる。</li> <li>・編末の Study や本文中のケースを実践する活動によって、個人の暮らしと生活のあり方を社会福祉との関連で捉え、その意義と理念を理解させると共に、主体的に学習に取り組む態度を養う。</li> <li>・準拠学習ノートで学習の理解到達度を確認し、学習したことを活用しながら表現をすることでより定着させる。</li> </ul>								
評価の観点及び趣旨	知識・技術 社会福祉の実践において必要な知識について体系的に理解しているとともに、関連する技術を身に付けていている。			思考・判断・表現 社会福祉の展開に関する諸問題を発見し、援助者としての倫理観をふまえて、合理的かつ創造的に解決をする力を身に付けている。			主体的に学習に取り組む態度 健全で持続的な社会を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。			

※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技術は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学期	月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点 知:思:態	評価方法 ・項目等	評価の規準等
1 学期	4	社会福祉の理念と意義	生活と福祉 ・少子高齢化と人口減少に向かう日本 ・産業と地域社会の変化 ・家族と働き方の変化 ・疾病構造の変化 ・人の一生と社会福祉	進行する少子高齢化と人口減少の中で社会福祉が担う役割を考察する。 産業構造の変化や地域社会の変化家族形態の変化や疾病構造について理解させる。 人の一生に社会福祉が様々な形で関わっていることを理解させる。	4	●	授業観察 ワークシート【思】 確認テスト【知】	・人口の推移に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。【思】 ・産業構造の変化や地域社会の変化家族形態の変化や疾病構造について理解している。【態】
	5		社会福祉の理念 ・現代の福祉理念 ・日本国憲法と社会福祉 ・地域生活と社会福祉 人間の尊厳と人権・福祉理念 ・人間としての尊厳 ・自立の概念 ・新たな社会福祉の構築に向けて	福祉の基礎となる理念について理解させる。 日本国憲法の人権規定と社会福祉との関わり、地域社会と社会福祉との関わりについて理解させる。 基本的価値としての人間の尊厳について、自立生活支援の考え方と今後の展望について理解させる。	7	● ●	授業観察 確認テスト ワークシート【思】 レポート【態】	・尊厳の尊重に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。【思】 ・尊厳の尊重について主体的に考察している。【態】
		中間考査			1			
6		社会福祉の歴史と次代の展望	諸外国における社会福祉 社会福祉の歴史 イギリスにおける社会福祉の発展 アメリカにおける社会福祉の発展 北欧の社会福祉（スウェーデン、デンマーク） アジアの少子高齢化と社会福祉の課題	社会福祉の歴史の流れを理解させる。 諸外国社会福祉の歴史と課題について理解させる。	9	●	授業観察 確認テスト ワークシート【知】	・社会福祉の歴史について理解し、正しい知識を身に付けている。【知】

学 期	月	单 元	学習内容・活動等	ね ら い	配当 時間	評価の観点 知・思・態	評価方法 ・項目等	評価の規準等								
1 学 期	7	社会福祉の歴史と次代の展望	日本における社会福祉 近代社会福祉の黎明期・社会事業の成立と発展 戦時厚生事業による福祉対策 戦後対策としての社会福祉の構築 高度経済成長期と社会保障・社会福祉の拡充 新世紀に向けた福祉改革と介護保険制度の導入	日本初めての公的な救済制度、国民年金・皆保険の成立、福祉六法体制の確立に関する背景と仕組みを理解させる。	9	●	授業観察 確認テスト ワークシート【知】 レポート【態】	・日本の社会福祉について理解し、正しい知識を身に付けている。【知】 ・日本の福祉に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。【態】								
2 学 期	8	夏季休業			1											
2 学 期	9	生活を支える社会福祉・社会保障制度	社会と生活のしくみ ・意義と役割・各制度の概要・推進する機関 子ども家庭福祉 ・少子化時代の子ども子育て支援 障害者福祉 ・障害者福祉と障害者保健福祉制度	社会保障制度の基本的な考え方について理解させる。 戦後にできた児童福祉法から、現代社会の子育て支援までの推移を理解させる。 障害者福祉関連法の基本的な内容について理解させる。	8	●	授業観察 確認テスト【知】 ワークシート【態】	・日本の社会保障制度について理解し、正しい知識を身に付けて、諸課題を解決しようと主体的に取り組んでいる。【知】【態】								
2 学 期	10	介護実践に関する諸制度	高齢者福祉と介護保険制度 生活支援のための公的扶助 国民の生活を支える社会保険制度	介護実践に関連する諸制度について理解させる。 介護保険制度の目的と内容について理解させる。 生活保護制度、生活困窮者自立支援法、生活福祉資金貸付制度の基本的な考え方について理解させる。	5	●	授業観察 確認テスト【知】 ワークシート【態】	・日本の高齢化社会について理解し、正しい知識を身に付けている。【知】 ・高齢者福祉について主体的に考察している。【態】								
2 学 期	11	人間関係の形成とコミュニケーションの基礎	コミュニケーションの基礎 支援における人間関係の形成 社会福祉における支援活動の概要 チームマネジメント	対人支援におけるコミュニケーションの意義や役割について理解させる。	8	●	授業観察 ワークシート レポート【態】	・コミュニケーションについて理解し、正しい知識を身に付けて諸課題を解決しようとしている。【態】								
3 学 期	1	地域福祉の進展と多様な社会的支援制度	多様な社会的支援制度 ・医療提供体制のしくみ ・特別支援教育の制度・実際 ・司法と福祉の連携 ・権利擁護と成年後見制度	医療提供施設の概要と医療に関わる専門職との連携や特別支援教育について、地域生活に向けた司法と福祉の連携、日常生活自立支援事業と成年後見制度について理解させる。	9	●	授業観察 確認テスト ワークシート【知】	・多様な社会的支援制度について理解している。【知】 ・多職種連携について理解している。【知】								
3 学 期	2	3	地域共生社会の実現に向けた制度や施策 ・つながりの再構築と社会福祉の役割 ・地域社会とボランティア ・非営利組織の活動 ・福祉のまちづくりと地域社会 ・新時代に向けた社会福祉	社会的孤立の問題に対し、国や地域社会、社会福祉専門職に求められる役割について理解させる。 地域共生社会の実現のために必要な支援を理解し、今後の社会に必要な福祉専門職の役割について考察させる。	7	●	授業観察 確認テスト【知】 ワークシート【思】 レポート【態】	・地域共生社会について理解し正しい知識を身に付けて、諸課題を発見し、解決しようとしている。【知】【思】 ・地域共生社会について主体的に考察している。【態】								
学年末考査																
合 計																

◇「社会福祉基礎」の総合評価における各観点の割合

知識・技術 50% 思考・判断・表現 30%

主体的に学習に取り組む態度 20%

◇「社会福祉基礎」の総合評価における各評価方法・項目の割合

① 定期考査 60%程度

② レポート・ノート 20%程度

③ 実技・技術 10%程度

10%程度

④ 授業態度

教科	福祉	科目	介護福祉基礎	単位数	2 単位	学年	1	指導者	原 佐緒理
教科書	介護福祉基礎（実教出版）					副教材	介護福祉士養成講座3 第2版 介護の基本I（中央法規出版） 介護福祉士養成講座4 第2版 介護の基本II（中央法規出版） 介護福祉用語辞典 介護福祉士国家試験合格ドリル（中央法規出版）		
科目の目標	1 介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護を行う上で基本的な考え方を習得させる。【知】 2 介護の現代的意義や役割について考えさせ、介護を取り巻く状況や介護福祉サービスの確立や様々な社会的対応について理解させる。【思】 3 介護を必要とする人に対して自立支援の観点に基づき、自己実現が達成されるよう適切な介護福祉サービスを提供できる能力と態度を育成する。【態】								
目標達成に向けての取り組み	・介護を取り巻く社会状況を理解させ、介護従事者として国民の求める介護従事者としての職業観を育成する。 ・サービス利用者のプライバシーや人権尊重の意義を人間としての尊厳の保持するための介護の必要性に関連づけて理解させる。 ・介護を必要とする人の生活について理解し、介護保険法や障害者自立支援法の内容について具体的に理解させる。 ・介護者の安全や倫理について介護実習の取り組みと関連づけて体験的に学習させる。								
評価の観点及び	知識・技術  介護に必要な知識や意義、役割について体系的・系統的に理解していると共に、関連する介護技術を身につけている。	思考・判断・表現  介護に関する諸問題について考えたり、判断したり、表現したりしている。また、介護に関する諸問題を発見し、介護者としての倫理観を踏まえて、合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。	主体的に学習に取り組む態度  より良い介護を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。						

※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技術は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学 期	月	単 元	学習内容・活動等	ね ら い	配当 時間	評価の観点 知・思・態	評価方法 ・項目等	評価の規準等
1 学 期	4	第1編 介護の意義と役割	1 尊厳を支える介護 ・介護の意義、役割、尊厳を支える介護 ・利用者主体の介護サービス ・介護を必要とする高齢者の人権と尊厳 ・障害者の人権と尊厳	尊厳の保持や自立支援という、介護福祉の基本となる理念、基本的人権の尊重の実現を目指した介護の意義や役割、生活の質を高める介護について理解させる。利用者主体の介護の実現のため、自己決定の重要性を理解し、自己決定に向けた支援について考察させる。高齢者虐待の種類や防止策について理解し、高齢者の権利擁護に関する制度について理解させる。	4	●	学習プリント 【思】	・尊厳のある介護や自己決定の支援に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。【思】
	5		2 自立に向けた介護・支援 ・自立を支援する専門職 ・個別性を尊重した自立のための支援 ICF・QOL・虐待防止策 エンパワーメント ・介護予防やリハビリテーション	介護分野における自立のあり方について理解させ、その本質や介護従事者としての関わり方を考察する。基本的人権の尊重を意識しながら、ICF モデルへの改訂が行われた背景を理解させ、利用者の QOL を高める方法や虐待防止策について考察させる。	2	●	小テスト【知】 授業観察・プリント 【態】	・高齢者や障害者の人権について理解し、正しい知識を身につけている。【知】 ・高齢者や障害者の人権について主体的に考察している。【態】
5	5	第2編 介護福祉の担い手	1 介護従事者を取り巻く状況 ・介護の歴史と現状	介護の歴史と介護を取り巻く状況について理解させ、介護保険制度が始まった社会の背景について理解させる。	6	●	学習プリント 【知】 小テスト・プリント 【思】 授業観察・プリント 【態】	・自立支援について理解し、正しい知識を身につけている。【知】 ・自立支援に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。【思】 ・自立支援の考え方や方策について主体的に考察している。【態】
	中間考查				4	●	学習プリント 小テスト【知】	・介護の歴史と現状を理解し、正しい知識を身につけている。【知】
6	6		2 介護従事者の役割と介護福祉士 ・介護の役割と機能、介護福祉士の専門性 (介護福祉士の役割と機能)	求められる介護福祉士像や利用者にとってより良い介護の場を実現するためには、介護福祉士の役割や機能等、専門性が重要であることを理解させる。	1	●	学習プリント 小テスト【知】	・介護の役割や機能、専門性を理解し、正しい知識を身につけている。【知】
	7		3 介護従事者の倫理 ・専門職(介護福祉士)の倫理 ・専門職としての基本姿勢 ・プライバシーの保護	介護福祉士に必要な専門的知識や技術・倫理的自覚について学ばせ、その要素や実践について考察させ、利用者を支える生活支援について考察し、専門職としての態度を形成する。	2	●	課題プリント【思】 授業観察【態】 プリント【態】	・介護従事者の倫理に関する諸問題を発見し、解決しようとしている。【思】 ・専門職として必要な基本姿勢を主体的に考察している。【態】
		期末考查			4	●		

学 期	月	单 元	学習内容・活動等	ね ら い	配当時間	評価の観点	評価方法 ・項目等	評価の規準等
						知・思・態		
学 期	8	夏季休業						
	9	第3編 介護を必要とする人の理解と支援	1 介護を必要とする人と生活環境 ・介護を必要とする人の生活を支えるしくみ	一人ひとりの生活歴があることを意識し、生活の多様性や社会との関わりを理解させる。その上で本人にとって暮らしやすい環境作りに必要な支援を考察させる。	10	●	学習プリント【知】	・介護を必要とする人の背景について理解している。【知】
	10	第2編 介護福祉の扱い手	1 介護従事者を取り巻く状況 ・介護福祉士の養成 ・介護人材の確保と定着 ・介護従事者のキャリアアップ ・介護従事者の社会的地位の向上	社会福祉士及び介護福祉士法と介護福祉士の資格取得方法について理解させる。介護人材の確保のための対策として、労働環境の整備や専門性の整理が急務であることを知らせ、EPAに基づく多様な人材との協働を考察させる。介護福祉士のキャリアパスについて理解させ、介護従事者の社会的地位向上のための取り組みについて理解させる。	2	●	授業観察	・災害時の支援に関する諸課題を発見し、主体的に解決しようとしている。【態】
	11		2 介護従事者の役割と介護福祉士 ・災害時における支援、平常時の防災 ・在宅と施設従事者の役割 ・終末期における介護従事者	災害時や様々な場における介護従事者の役割と地域で暮らし続けるために必要な視点を理解させる。	6	●	学習プリント小テスト【知】	・様々な場における介護従事者の役割を理解し、正しい知識を身につけている。【知】
	12				4	●	学習プリント【思】	・介護従事者を取り巻く環境について理解し、地位の向上や多様な人材との協働について、創造的に考えている。【思】
		期末考査			1			
	1	第3編 介護を必要とする人の理解と支援	5 介護福祉サービスの概要 ・介護保険制度 ・介護サービスの場の特性 在宅：居宅・地域密着型サービス 施設サービス ・障害者支援サービス 障害者総合支援法 障害者雇用促進法	介護保険制度の目的とサービス利用の流れについて理解させる。介護サービスや地域連携等、フォーマル・インフォーマルな支援等、様々なサービスの種類を理解し、利用者や家族の意向に沿ったサービス利用について考察する。 障害者総合支援法の概要を理解し、サービスとその利用手続きについて理解させる。障害者雇用促進法を通して、障害者支援について考察し、障害者の雇用や障害者の就労支援について理解させる。	6	●	学習プリント【知】	・介護保険サービスについて理解し、正しい知識を身につけている。【知】
	2				6	●	授業観察【態】	・様々なサービスの種類や特徴を理解し、利用者の状況に応じたサービスの利用について主体的に考えている。【態】
	3					●	小テスト・プリント【思】	・施設サービスや在宅サービスに関する諸課題を発見し、解決しようとしている。【思】
		学年末考査			1			
		合 計			70			

◇ 「介護福祉基礎」の総合評価における各観点の割合  
知識・技術 50% 思考・判断・表現 30% 主体的に学習に取り組む態度 20%

◇ 「介護福祉基礎」の総合評価における各評価方法・項目の割合  
 ① 定期考査 30 %程度 ② レポート・ノート 30 %程度  
 ③ 実技・技術 20 %程度 ④ 授業態度 20 %程度

教科	福祉	科目	コミュニケーション技術	単位数	2	学年	1	指導者	佐々 由美子
教科書	コミュニケーション技術（実教出版）					副教材	コミュニケーション技術（中央法規出版）		
科目的目標	(1) 福祉実践におけるコミュニケーションの意義と役割を理解し、コミュニケーションの基本技術、サービス利用者や家族とのコミュニケーション方法を身につけるようにする。(知識・技術) (2) 実践的・体験的な学習活動をとおして、コミュニケーションに関する諸課題について発見し、解決する力を養う。(思考・判断・表現) (3) 福祉実践におけるチームのコミュニケーション構築のために必要な資質・能力を育成する。(態度)								
目標達成に向けての取り組み	(1) 実践的・体験的な学習活動をとおして、福祉実践に必要な深い知識を伴った対人援助の知識・技術を習得させる。 (2) 介護実習やボランティア活動、地域交流の場などの学習活動をとおして、福祉実践におけるコミュニケーションの活用や信頼関係・人間関係の構築のための役割など主体的に学習に取り組む態度を養う。 (3) 学習の理解度を確認しながら、 ・介護を必要とする人を理解するための基本的なコミュニケーションの技法を習得させる。 ・保健・医療・福祉など他職種協働におけるコミュニケーションの在り方を扱い、チームケアのためのコミュニケーションの重要性を理解させる。								
評価の観点及び趣旨	<b>知識・技術</b> 高齢者や障害者の特性や対応方法について理解するとともに、対人援助コミュニケーションに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、介護福祉現場における一人ひとりに応じたコミュニケーションが実践できる力をつけています。			<b>思考・判断・表現</b> 高齢者や障害者に対しての対人援助活動に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、コミュニケーションにおける基礎的・基本的な知識と技術を活用して利用者一人ひとりの個別ニーズを適切に判断し、ニーズに応じた介護実践を創意工夫する能力を身につけ、その成果を的確に表現できている。			<b>主体的に学習に取り組む態度</b> コミュニケーション技術に対する关心を持ち、介護福祉におけるコミュニケーションに向けた課題に意欲的に取り組み、人間尊重の精神に基づいた高齢者や障害者の自立支援を目指したコミュニケーションを行おうとする態度を身に付けています。		

\*上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技術は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学期	月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点			評価方法・項目等	評価の規準等
						知	思	態		
学 期	4	・福祉実践におけるコミュニケーションの意義と役割 ・人間の理解と人間関係 ・他者理解と自己覚知 ・対人関係とコミュニケーション ・コミュニケーションの意義と機能	1 コミュニケーションの意義と役割 ・人間関係とコミュニケーションについて、ロールプレイなど演習を通じて理解させる。他者を理解するには、自分を理解することが重要と認識させる。 ・演習を通じて、コミュニケーションの意義と機能について理解させる。	・人間関係とコミュニケーションについて、ロールプレイなど演習を通じて理解させる。他者を理解するには、自分を理解することが重要と認識させる。 ・演習を通じて、コミュニケーションの意義と機能について理解させる。	8	●			・ワークシート(知) ・確認テスト(知) ・観察(思) ・演習レポート	・他者理解のための自己理解ができる。(知) ・コミュニケーションの技法について理解する。(知) ・コミュニケーションの技法が身についている。(思) ・演習に積極的に取り組もうとする態度を身に付けている。
	5					●	●	●		
	中間考査（内容把握、人間関係とコミュニケーション）					1			・考查	
	6	・コミュニケーションの基本技術 ・言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション ・受容と共感 ・対人援助におけるコミュニケーションの実際 2 援助の技法とコミュニケーション ・個別援助としてのコミュニケーション ・集団援助としてのコミュニケーション ・利用者や家族との関係作り ・家族への支援	1 コミュニケーションの基本技術 ・言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション ・受容と共感 ・対人援助におけるコミュニケーションの実際 2 援助の技法とコミュニケーション ・個別援助としてのコミュニケーション ・集団援助としてのコミュニケーション ・利用者や家族との関係作り ・家族への支援	・話を聞く技法について、演習を通じて理解する。特に、利用者の話を傾聴 ・受容・共感していく手法を習得させる。  ・援助の基本について、利用者や家族との関係作りから理解させる。	5	●	●	●	・観察 ・演習レポート(知) ・ワークシート(知) ・演習レポート(思) ・観察	・積極的に対象者と関わろうとしている。 ・介護実践におけるコミュニケーションの意義と役割を理解している。(知) ・話を聞く技法が身に付いている。(知) ・利用者の理解と関係づくりにの意義を理解している。(思) ・信頼関係を形成する態度を身に付けている。
期末考査（内容把握、基本的なコミュニケーションの技法）					1				・考查	

学 期	月	单 元	学習内容・活動等	ね ら い	時 間	評価の観点			評価方法 ・項目等	評価の規準等
						知	思	態		
学 期	8	夏季休業								
	9	・サービス利用者に応じたコミュニケーション	1 サービス利用者に応じたコミュニケーション ・高齢者とのコミュニケーション ・障害とコミュニケーション ・視覚障害のある人とのコミュニケーション ・聴覚障害のある人とのコミュニケーション ・言語障害のある人とのコミュニケーション	・コミュニケーション障害のある利用者の特性を理解し、その特性に応じたコミュニケーションの方法や対応を理解させる。	1 2	●	●	●	・ワークシート(知) ・演習レポート(思) ・演習観察(態) ・演習レポート(態)	・具体的な利用者や介護場面を想定し理解している。(知) ・特性に応じたコミュニケーション法を身に付けている。(思) ・利用者の特性に応じたコミュニケーションを実践しようとしている。(態) ・カンファレンスに向けて表現力が身に付いている。(態)
	10		2 カンファレンスについて	・カンファレンスの意義と目的を理解させる。	2	●	●			
	(介護実習 10月 15日～11月6日)									
	11	・利用者の特性に応じたコミュニケーション	3 様々な障害がある利用者とのコミュニケーション ・認知症の利用者 ・肢体不自由者 ・知的障害をもつ人 ※介護実習を通じてさまざまな障害のある利用者とコミュニケーションを図る。	・様々な障害によるコミュニケーションへの影響を理解させる。 ・介護実習における利用者とのコミュニケーションについて、考えをまとめさせる。	9	●	●	●	・ワークシート(知) ・演習レポート(思) ・観察(態) ・レポート ・発表(思)	・障害の特性が理解できている。(知) ・障害ごとに必要とされるコミュニケーションの手段は何か判断できる。(思) ・様々な障害のある利用者とのコミュニケーションに積極的に取り組んでいる。(態) ・実習報告会で実習で得た知識や技術を他者に伝えようと創意工夫し表現している。(思)
	12		4 実習事後指導 ・実習後感想文 ・実習報告会	・介護実習における利用者とのコミュニケーションについて、考えをまとめ、発表させる。	6	●				
	期末考査								・考查	
	1	・福祉実践におけるチームのコミュニケーション	1 記録による情報の共有化 ・記録の意義と目的 ・記録の種類・構成 ・記録の方法と留意点、管理 ・介護記録の書き方、IT活用 ・介護記録の活用	・記録の意義と目的を理解し、介護記録の書き方と活用について、演習を通じて理解させる。	3	●			・ワークシート(知) ・ワークシート(知) ・ワークシート(知) ・ワークシート(知) ・演習レポート(思) ・レポート(態)	・客観的な記録により利用者理解につながると理解している。(知) ・記録の種類ごとの手法が身に付いている。(知) ・チームの連携の重要性について理解している。(知) ・会議の種類や情報共有の重要性を理解している。(知) ・スーパービジョンの意義とその種類を理解している。(思) ・指導者からの指導を今後の実習に活かせる。(態) ・介護現場におけるレクリエーションの意義とその実際を理解している。(知) ・介護におけるコミュニケーションの基本的心構えを身に付けている。(態)
	2		2 チームにおける連携 ・チームのコミュニケーション ・情報の共有化 ・会議による情報の共有化	・報告と申し送りの意義を、演習により実践練習をさせる。 ・会議の意義を理解し、会議の持ち方の基本について習得させる。	2	●	●	●	・観察(知) ・演習レポート(態)	
	3		3 スーパービジョンの技法 ・スーパービジョンとは ・スーパービジョンの方法	・スーパービジョンの方法を理解させる。	2	●				
	4		4 レクリエーションの実際	・施設に於けるレクリエーションの計画と実施を行い、レクリエーション計画の視点を習得させる。 ・コミュニケーション技術を学んでの感想や意見をまとめさせる。	3	●				
	3	・まとめ	まとめ 「コミュニケーション技術」を学んで *ディスカッション		4	●			・演習レポート(態)	
学年末考査					1				・考查	
合 計					70					

◇ 「コミュニケーション技術」の総合評価における各観点の割合

知識・技術 40% 思考・判断・表現 40%

主体的に学習に取り組む態度

20%

◇ 「コミュニケーション技術」の総合評価における各評価方法・項目の割合

① 定期考査 40%程度

② レポート・ノート 20%程度

③ 実技・技術 20%程度

④ 授業態度 20%程度

教科	福祉	科目	生活支援技術	3 単位	学年	1	指導者	岸本仁美 桜友愛梨 亀島木綿子	
教科書	生活支援技術（実教出版）								
科目的目標		福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、適切で安全・安楽な生活支援技術を提供するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。							
		(1) 自立生活の支援について体系的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。【知】 (2) 自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。【思】 (3) 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自立生活の適切な支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。【態】							
目標達成に向けての取り組み		・生徒自身が利用者役・介護者役になることで、利用者の心情を慮りながら利用者との人間関係について理解し基礎的なコミュニケーション能力の育成を図る。 ・「こことからだの理解」の授業と連動させ、科学的な知識の裏付けによる支援の必要性や方法を理解する。 ・利用者の生活や個別性、尊厳を踏まえた生活の自立について理解し、それに必要な実際的な支援の方法が提供できるよう考える能力を養う。							
評価の観点及び趣旨	知識・技術			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	自立生活の支援について体系的に理解するとともに、関連する技術を身に付けています。実際の支援内容を合理的に計画し、適切に実践する技能を身につけています。			自立生活の支援の展開に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ、科学的な根拠に基づいた介助により、諸問題の解決を目指していくための思考を深め、適切に判断し創意工夫し表現する能力を身につけている。			健全で持続可能な社会の構築を意識した生活支援における課題について関心を持ち、利用者の生活の自立を目指して意欲的に学習に主体的に取り組むとともに、課題解決のための実践的な態度を身につけている。		

\*上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技術は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学期	月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点			評価の規準等
						知	思	態	
1 学 期	4	生活支援の理解	生活支援の理解（意味と役割） 授業の進め方と授業内容 実習時の心構え、服装、準備、レポート作成 実習室の使い方 ICF の視点を活かした生活支援	サービス利用者の尊厳を保持した自立支援の方法、潜在的能力を引き出す支援をするための基本となる心身状態の観察の必要性、介護を必要とする人などについて理解させると共に、生活支援技術を学ぶための倫理観を踏まえたルールを理解させる。  ICF の視点を生活支援に活かすことの意義を理解させ、生活の豊かさや心身の活性化のための支援につなげさせる。	5	●	●	●	・生活支援技術について学習すべき内容がイメージでき倫理観をふまえたルールが理解できている。【思】 ・清潔感があり、身だしなみを整えることができる。【態】
	居住環境の整備	生活支援における居住環境整備の意義と目的 生活空間と介護 居住環境のアセスメント 快適な生活の場作り		快適で安全な居住環境を整備するための基本事項を理解し、住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや利用者が自立した生活を送るために必要な居住環境の視点を理解させる。	3	●	●	●	・必要時メモをとり、ができる。【思】 ・居住環境整備の意義と目的が理解できる。【知】 ・課題を発見し、解決できる技術を身に付けている。【知】【思】
5	移動の介護	移動の意義と目的 移動・移乗における介護技術 ボディメカニクス 起居動作・体位変換 安楽な体位		利用者一人ひとりの心身状態や状況に応じた自立に向けた安全で安楽な移動の介護を行い、また介助者にとっても負担の少ない介助技術を習得させる。	1 2	●	●	●	・利用者の心身の状況に応じた安全で安楽な支援について主体的かつ協働的に取り組む態度が身についている。【態】 ・介助者に負担の少ない支援方法を身に付けている。【知】【思】【態】 ・レポートをまとめ期日に提出できる。【思】【態】 ・安全で安楽な移動方法について理解している。【知】
	中間考査				1				
6	休息・睡眠の介護	ベッド、リネン類の取り扱い ベッドメイキング		利用者にとって生活の場である寝床の整備について、清潔で安全に安楽に整えるための技法をボディメカニクスを活用しながら実践させる。	1 2	●	●	●	・必要物品の名称とその用途を理解している。【知】 ・基本的な手技が習得できる。【知】 ・協働の姿勢が身についている。【態】

月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点		評価方法	評価の規準等
					知識	思考・判断・表現		
1 学 期	7 身じたくの介護	衣服の着脱 部屋着の交換 パジャマの着脱 和式寝衣の着脱	身だしなみや服装など尊厳を重視したその人らしさの表現、利用者の状況に応じた衣服着脱、自立に向けた身じたくの介護に関する基礎的な知識と技術を習得させる。	1 2	● ● ● ●	● ● ● ●	実技練習観察 実技チェック【知】 【思】【態】 レポート確認 【知】【思】 レポート・自己評価【思】【態】	・利用者に応じた物品が準備でき、利用者の安全、安楽やプライバシーに配慮した行動がとれている。【思】【態】 ・手順を正しく理解し、安全に安楽に利用者が自立できるような支援を提供できている。【知】【思】 ・レポートをまとめ期日に提出できる。【思】【態】
	期末考査			1				
2 学 期	8 夏季休業							
	9 移動の介護	移動の意義と目的 移動・移乗における介護技術 車いすの介助 歩行介助	日常生活に不可欠な基本動作である移動・移乗を自立させるために必要な介護、活動意欲を高め、安全で安楽な介護、利用者の状態や状況に応じた自立に向けた介護に関する基礎的な知識と技術を習得させる。	1 8	● ● ●	● ● ● ●	実技練習観察 実技チェック レポート確認 観察・自己評価 レポート確認	・利用者の安全、安楽を第一に考えた行動ができ転倒・転落の予防ができる。【思】【態】 ・手順を正しく理解している。【知】 ・利用者自身及び介護者の負担を最小限にできている【知】 ・レポートをまとめ期日に提出できる。【思】【態】
3 学 期	10 介護実習 10月15日～11月6日							
	11 福祉用具の意義	生活支援における福祉用具の重要性 福祉用具の種類 適切な福祉用具を選ぶための視点	福祉用具の種類や導入のプロセスや福祉用具の可能性について理解を深めさせる。利用者の心身の状況を踏まえた福祉用具選択の視点について理解させる。	7	● ● ●	● ● ● ●	プリント確認 【知】【思】 確認テスト 【知】 レポート確認 【思】【態】	・福祉用具の意義について理解し、説明ができる。【知】【思】 ・介護保険法や障害者総合支援法における福祉用具サービスについて理解できる。【知】 ・レポートをまとめ期日に提出できる。【思】【態】
3 学 期	12 期末考査			1				
	1 排泄の介助	排泄の意義と目的 ポータブルトイレ 尿器・便器 おむつ・パット交換	利用者一人ひとりの心身の状態や状況に応じ、自立に向けた排泄の介護について理解させる。また、安全で安楽な介助方法やプライバシーに配慮した介助に関する基礎的な知識と技術を習得させる。更に介助者にとっても負担の少ない介助技術を習得させる。	1 0	● ● ● ● ●	● ● ● ● ●	実技練習観察 実技チェック レポート確認 実技練習観察	・利用者の安全、安楽を第一に考え行動できプライバシーに配慮した行動がとれている。【思】【態】 ・手順を正しく理解している。【知】 ・利用者自身及び介護者の負担を最小限にできている。【思】【態】 ・レポートをまとめ期日に提出できる。【思】【態】 ・ADLの支援や利用者の日常生活から利用者を理解する技能を身に付けている。【知】
3 学 期	2 1年間のまとめ	ベッドメイキング 体位変換 着脱介助 移動・移乗	利用者の快適で安全な居住空間や環境を整備することができた上で、安全で安楽であり、尊厳を重視した、体位変換や移動・移乗介助、着脱介助、排泄介助における自立支援を目的とした介護技術の実践をさせる。	1 6	● ● ●	● ● ●	実技練習観察 実技テスト レポート確認	・快適で安全で安楽な環境を整える技術が身についている。【知】 ・それぞれの介助について科学的根拠に基づき、利用者の心身の状況に応じた安全で安楽な介助が実践できる技術が身についている。【知】【思】
	3 学年末考査			1				
合計				105				

◇「生活支援技術」の総合評価における各観点の割合

知識・技術 40 % 思考・判断・表現 30 %

主体的に学習に取り組む態度

30 %

◇「生活支援技術」の総合評価における各評価方法・項目の割合 (例)

① 定期考査 50 %程度

② レポート・ノート

30 %程度

③ 実技・技術

10 %程度

④ 授業態度

10 %程度

教科	福祉	科目	介護総合演習	単位数	1 単位	学年	1	指導者	岸本仁美 亀島木綿子	
教科書	準教科書 介護福祉士養成講座 10 第2版 介護総合演習・介護実習（中央法規）									
科目的目標		福祉の見方・考え方を働きかせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の創造と発展に必要な資質・能力を育成することを目指す。 1 社会福祉や介護について、実際の現場で専門的な知識と技術の深化、総合化を図るため、事前準備を通じて体系的に理解させる。【知】 2 介護現場における実習前・中・後の学習を通して職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。【思】 3 演習や実習後のまとめ、事例研究を通じ、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、課題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を養う【態】								
目標達成に向けての取り組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>介護実習と関連づけ、主体的に介護実習に取り組めるようにする。</li> <li>生徒の興味・関心・進路・地域の実態に応じた演習テーマを主体的に考えることができるよう配慮する。</li> <li>介護実習を通じて生徒が自己の課題を考え、介護従事者としての意識を持てるようにする。</li> </ul>								
評価の観点及び趣旨	知識・技術			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
	地域福祉や福祉社会について体系的に理解するとともに、関連する技術を身に付けています。社会福祉や介護に関して学んだ基本的な知識や技術を活用し、高齢者や障害者の介護において、総合的な援助について、適切な技術を身に付けています。			地域福祉や福祉社会に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観をもとに、社会福祉に関して学んだ基本的な知識や技術を用い、科学的根拠に基づいた解決策を探求し、対人援助場面において、統合的に思考し判断できる力を身に付けています。			健全で持続可能な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や福祉社会の中の対人援助場面において主体的に実践しようとしている。また、社会福祉現場での実習を通じて介護専門職の職業観、勤労観を身につけています。			

※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技術は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学期	月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点			評価方法・項目等	評価の規準等
						知	思	態		
1学期	4	介護総合演習で何を学ぶか	介護総合演習の位置づけ 介護総合演習の目的	介護実習の意義と目的について理解し、校内の学習と統合させ、資格取得に向けての意欲を高めさせる。 3年間を通じて行う介護実習の概要とその達成課題・達成目標を理解させる。	3	●	●	●	ワークシート 【知】【思】 実習要綱【知】	・介護実習の目的や内容を理解している。【知】 ・本校の介護福祉士養成学則を理解している。【知】 ・介護実習の意義を理解し、主体的に学ぼうとしている。【態】
	5	介護実習で何を学ぶか	介護実習の意義と目的 介護実習の必要性 介護実習の内容 介護実習の達成課題と達成目標 実習生としての基本事項の理解 身だしなみ、言葉遣い、時間管理能力 実習への取り組みの姿勢、態度 実習における健康管理 実習前健康診断	介護実習生として職業人に求められる倫理観を踏まえた態度を身に付け、円滑な人間関係を構築するためのスキルを習得させる。 介護実習の目的を理解した上で、個人情報保護、倫理綱領、危機管理について理解させる。	3	●	●	●	授業観察【態】 ワークシート 【思】【態】 介護実習要項【知】	・実習生として身だしなみが整っており、挨拶ができる。 ・実習の目的を理解した上で実習への心構えができる。 ・事前健康診断の重要性を理解する。
	中間考査					1				
	6	介護実習準備 実習先の特徴	実習施設とその利用者の理解 高齢者介護施設 (ケアハウス、小規模多機能型居住型施設) (グループホーム、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設)	介護保険施設について持続的な社会の構築の観点からの各施設の目的や役割を理解し、施設入居利用者を理解させる。	3	●	●	●	ワークシート 【知】【思】	・施設の種別によって介護内容の違いがあることを理解している。【知】 ・各実習施設の特性や利用者の状況を理解し、諸課題を発見しようとしている。【思】

学 期	月	单 元	学習内容・活動等	ね ら い	配当時間	評価の観点 知・思・態	評価方法 ・項目等	評価の規準等
1 学 期	7	介護実習準備	実習記録 実習における記録の必要性 実習記録の目的 実習記録を書く際の留意点	知識と技術の統合、情報の共有のための実習における記録の必要性、目的、留意点等を理解させる。	2	● ● ●	実習記録【知】 【思】【態】	・記録簿を整理し、事前学習等の記録が適切に記入されている。 【知】【思】【態】
		期末考査			1			
2 学 期	8	夏季休業						
	9	介護実習準備、 実習先での学び	実習事前準備 実習生プロフィール作成 実習目標設定 施設・利用者の理解	実習前に必要な記録物の確認及び作成を行うことにより、実習に向けての意識を高める。 客観的な事実の記録の必要性の理解及び適切な記録方法を習得し、自己の目標の明確化と言語化をさせる。 介護実習の実際的な進め方について理解できる。 実習施設ごとの準備物や記録、カンファレンスについて理解し、その準備をさせる。	7	● ● ● ● ● ● ●	ワークシート 実習記録【知】 【思】【態】	・施設についての事前学習ができている。【知】 ・自己を客観的に表現し、実習目標を考えることができる。【思】 ・記録の基本的記入方法が習得できている。【知】 ・実習の必要書類等が準備できている。【態】 ・基礎的な生活支援技術の確認ができる。【知】【思】【態】
3 学 期	10		実習施設オリエンテーション 施設事前打ち合わせ 通学方法確認 実習記録の書き方 介護技術の確認				実技確認【知】 【思】【態】	
		基礎実習 I (10月15日～11月6日)						
11	実習中・実習後の学び 実習期間中の留意点	実習期間中の健康管理 利用者・職員・班員とのコミュニケーションの実際 カンファレンスにおける学び	個々の生徒が主体的に安全に実習を行えるよう、記録や帰校日の振り返りから自己評価させ、自己の課題に気づかせる。		3	● ● ● ●	実習記録【態】 実習記録【知】 【思】	・基礎実習に意欲的に取り組めている。【態】 ・実習記録が適切に書けている。【知】【思】 ・カンファレンスについて理解し、学びの場とできる。【思】
	実習後の学び	実習の振り返り 実習記録からの振り返り 実習のお礼	実習の目的が達成できたか、反省をし、課題に気づかせる。 実習施設への感謝の気持ちを持たせる。		4	● ● ● ●	実習評価表【態】 実習記録【知】 【思】 制作物【態】 ワークシート	・実習について客観的に評価できる。【態】 ・記録の基本的記入方法が習得できている。【知】【思】 ・製作物（お礼品）を完成することができる。【態】 ・障害児・者施設の利用者について理解できる。【知】
12	見学実習 実習先の特徴、 実習先での学び	見学実習の理解 障害者支援施設 医療型障害児入所施設・療養介護施設	障害者施設の種類、利用者について理解する。障害者のQOL向上と自立支援を目指した介護の知識と技術を習得させる。		1			
	期末考査							
3 学 期	1	実習後の学び 実習報告会	報告会資料 模造紙の制作 実習で学んだこと 実習後感想文 介護実習自己評価 実習報告会	報告会の準備をすることで、自己の実習態度を振り返り、学びを言語化させる。発表により、互いの学びを共有するとともに、今後の課題に気づかせる。	2	● ● ●	実習記録・発表 態度・原稿【思】 【態】 ワークシート 【知】【思】	・報告することにより、学びの共有と共に、他者を尊重することができる。【思】【態】 ・今後の課題を考えることができる。
	2		基礎実習 II の達成課題と達成方法 介護過程	基礎実習 I を踏まえ、次年度の基礎実習 II について理解させる。	5	●	ワークシート	・基礎実習 II がイメージできる。
3 学年末考査					1			
合 計					35			

◇ 「介護総合演習」の総合評価における各観点の割合

知識・技能 30% 思考・判断・表現 30% 主体的に学習に取り組む態度 40%

◇ 「介護総合演習」の総合評価における各評価方法・項目の割合

① 定期考査	40%程度	② レポート・ノート	30%程度
③ 実技・技術	20%程度	④ 授業態度	10%程度

教科	福祉	科目	介護実習	単位数	3 単位	学年	1	指導者	岸本仁美 亀島木綿子 原佐緒理 榎友愛梨 佐々由美子 新田剛司								
教科書	準教科書 最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習（中央法規）	副教材	最新・介護福祉士養成課程（中央法規）各巻														
科目的目標		福祉の見方・考え方を働きかけ、多様な介護の現場で実習を行い、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の創造と発展に必要な資質・能力を育成することを目指す。 1 社会福祉や介護について、専門的な知識と技術を実際の現場において体系的に理解させる。【知】 2 実際の介護現場での学びを通じ、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。【思】 3 多様な介護の場で実習を行うことを通し、健全て持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自発的、創造的な実習態度を養う。【態】															
目標達成に向けての取り組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>介護実習がサービス利用者の生活空間で行われるため、実習指導者と実習の目標を共有するなど連携を図りながら、各段階に応じた目標を明確にし、主体的に実習を取り組む態度が育成できるように配慮する。</li> <li>多様な介護の場においてサービス利用者一人一人の生活や個性を尊重して実習できるよう、実習生としての礼儀、態度等を理解させる。</li> <li>サービス利用者や家族とのコミュニケーション能力を高める技法の実践を行い、福祉に関する他の専門科目で学習した知識や技術を統合しながら介護を行うとともに、多職種協働における介護従事者の役割や職業倫理について理解させる。</li> </ul>															
評価の観点及び趣旨	知識・技能	思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度											
評価の観点及び趣旨		社会福祉施設における高齢者や障害者の介護や福祉制度のあり方について体系的に理解している。また、社会福祉や介護に関して学んだ基本的知識や技術を活用し、高齢者や障害者の介護において、総合的な援助の技術を身に付けていく。				社会福祉に関して学んだ基本的知識や技術を、高齢者や障害者の総合的介護における対人援助場面において、統合的に思考し、判断し、表現している。											

※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技能は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学期	月	單 元	学習内容・活動等	ね ら い	配当時間	評価の観点 知 思 態	評価方法 ・項目等	評価の規準等
1 学期	4							
	5	事前健康診断	胸部レントゲン撮影 尿検査 内科検診	介護現場における感染症の実態を取り上げ、感染予防の意義と必要性について理解させ、自身の健康管理を意識させる。		●	実習前の検査や検診【態】	・所定の検診や検査を期日を守り受診・提出できる。【態】
	6							
2 期	7							
	8	夏季休業						
	9	事前健康診断	検便 細菌検査 (抗原検査)	介護現場における感染症の実態を取り上げ、感染予防の意義と必要性について理解させ、自身の健康管理を意識させる。		●	各種検査【態】	・所定の検診や検査を受診できる。【態】
	10	介護実習 (基礎実習 I) 介護実習 見学実習	介護実習 10月15日～11月6日(14日間) ○実習施設における介護技術の実践、 コミュニケーションの実践 ○介護実習お礼 訪問 ○見学実習 (障害者支援施設)	特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、グループホーム、障害者自立支援施設において基本的な介護技術の見学や実践を行うとともに、自立生活支援のために介護が提供されていることについて理解させる。	112	● ● ●	実習態度・記録 評価表 自己評価 指導者聞き取り 実習後レポート 見学実習記録 【知】【思】【態】	・実習への心構えや事前準備ができる。【思】【態】 ・実習目標を理解している。【知】 ・記録の方法を習得している。【知】 ・適切なコミュニケーションが図られている。【思】【態】
	11	冬季休業			4			
合 計					116			

◇ 「介護実習」の総合評価における各観点の割合

知識・技能 30 % 思考・判断・表現 30 %

主体的に学習に取り組む態度 40 %

◇ 「介護実習」の総合評価における各評価方法・項目の割合 (例)

① 実習施設指導者評価 40 %程度 ② 実習記録・レポート 40 %程度 ③ 巡回指導者評価 実技・技術 10 %程度 ④ 実習態度 10 %程度

教科	福祉	科目	こころとからだの理解	単位数	2 単位	学年	1	指導者	亀島木綿子	
教科書	こころとからだの理解（実教出版）									
科目的目標		福祉の見方・考え方を働きかせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、介護を実践するための人間の理解に必要な資質・能力を育成することを目指す。 (1) こころとからだのしくみと基本的な生活行動との関係について理解し科学的根拠を踏まえた支援の方法を理解する。（知識・技術） (2) こころとからだに関する諸課題の解決を目指して思考・判断し、適切な方法を表現することができる。（思考・判断・表現） (3) こころとからだの理解に基づいた自立生活の支援に主体的に取り組む態度を養う。（主体的に学習に取り組む態度）								
目標達成に向けての取り組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>「介護のため」という視点のもと理論と実践の融合を目指す。</li> <li>介護実践に必要な根拠となる知識という観点からからだとこころのしくみについて知識を養う。</li> </ul>								
評価の観点及び趣旨	知識・技術			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
	自立生活の支援に必要なこころとからだについて体系的に・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。			自立生活の支援に必要なこころとからだに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。			健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、こころとからだに基づいた自立生活の支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			

※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技術は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学期	月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点			評価の規準等	
						知	思	態		
1 学 期	4	オレンジーション 健康とは何か こころのしくみを理解する	こころとからだの理解で学ぶ事柄授業の進め方 1 健康の定義 2 健康観 3 なぜ病気になるのか 1 人間の欲求とは 基本的欲求・社会的欲求 2 自己実現と尊厳 3 こころのしくみの基礎	介護実践の科学的根拠となる内容について3年間で学ぶことを理解させる。 漠然としがちな健康の概念をWHOの定義をもとに理解させる。 自己概念や尊厳、認知、思考・感情、学習や記憶、適応機制やストレスとの対処法など、こころのしくみを理解させる。	2 4	●	●	●	プリント確認 確認テスト 「知」 ドリル確認 「思」 授業観察 「態」	・ こころのしくみについて基本的な内容を理解し、専門用語で答えることができる。「知」 ・ ドリルの解答だけでなく+αの内容を整理し書込むことができる。「思」 ・ プリント資料が整理できる。「態」
	5	からだのしくみを理解する 「移動」に関連したこころとからだのしくみ	1 からだのしくみ 1 移動のしくみ 姿勢・ボディメカニクス・良肢位 2 心身の機能低下が移動に及ぼす影響 骨折・廃用症候群・褥瘡 3 変化の気づきと対応	からだの部位の役割、関連する役割を理解させる。 移動の生理的意味、重心の移動やバランス、安全な移動持、歩行のしくみについて理解させる。 機能の低下や障害が及ぼす移動や身体などへの影響について理解させる。	4 6	●	●	●	プリント確認 確認テスト「知」 ドリル確認「知」 授業観察「思」 発表「態」	・ からだの部位の役割、関連する役割を説明できる。「知」 ・ 移動の基礎知識を理解する。「知」 ・ 機能低下の原因とその影響を理解する。「思」 ・ 異常発見のため介助時の観察点が述べられる。「態」
	中間考查				1					
	6 7	「身じたくを整える」に関連したこころとからだのしくみ	1 身じたくのしくみ 顔面の構成・眼耳鼻爪口腔の構造と機能 2 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響 3 変化の気づきと対応	身じたくの生理的意味、その人らしさの表現について理解させる。 心身機能の低下が整容行動に及ぼす影響や日常生活における利用者の変化に気付くための観察の方法や対応についても理解させる。	7 6	●	●	●	ドリル確認「知」 確認テスト 発表「思」 確認テスト「態」	・ 身支度の基礎知識を理解する。 ・ 機能低下の原因とその影響を理解する。「知」 ・ 異常発見のため介助時の観察点が述べられる。「思」 ・ 介助時の科学的根拠を理解する。「態」
期末考查					1					

学期	月	単元	学習内容・活動等	ね ら い	配当時間	評価の観点 知・思・態	評価方法 ・項目等	評価の規準等	
2 学 期	8	夏季休業							
	9	「食事」に関連したこころとからだのしきみ	1 食事のしきみ ・栄養と水分 摂食と嚥下 2 心身の機能低下が食事に及ぼす影響 器質障害・機能障害 3 変化の気づきと対応 窒息・誤嚥・脱水の予防とその対応	食べることの生理的な意味、おいしく感じるしきみ、食欲や口渴などについて理解させる。また機能低下や障害が及ぼす影響、食欲不振、治療食についても理解させる。さらに誤嚥・窒息・脱水などの異常事態の予防や観察点、対応についても理解させる。	6	● ● ●	ドリル確認「知」 発表「思」 確認テスト「思」 授業観察「態」	・食事に関する基礎知識が理解できる。「知」 ・消化と吸収について理解し説明できる。「思」 ・機能低下の原因とその影響を理解し、異常発見のため介助時の観察点が述べられる。 ・安全な食事のための留意点を説明できる。「態」	
	10	「入浴・清潔保持」に関連したこころとからだのしきみ	1 入浴・清潔保持のしきみ 皮膚のしきみ・発汗のしきみ・陰部や毛髪の清潔 2 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 3 変化の気づきと対応	入浴や清潔保持の生理的意味、リラックス、爽快感を感じるしきみ、皮膚の汚れ、発汗のしきみ、皮膚症状（かゆみやかぶれ）、身体への影響などについて理解させる。	6	● ● ●	ドリル確認「知」 確認テスト「思」 発表「態」	・清潔保持にかかる基礎知識を理解している。「知」 ・異常発見のための変化が観察できる。「思」 ・障害が与える影響についてイメージでき、その対応策を考えることができる。「態」	
	11	「排泄」に関連したこころとからだのしきみ	1 排泄のしきみ 正常な排泄行為 尿・便・人工膀胱・人工肛門 2 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 認知症・ストレス・ADL低下・下痢 3 変化の気づきと対応	排泄の生理的意味と排泄物の性状・量・回数、排尿や排便のしきみについて理解するとともに便秘や下痢、失禁などの機能の低下や障害の原因とその影響についても理解させる。また生活場面における排泄状態や異常に気付くための観察ポイントなどについても理解させる。	6	● ● ●	ドリル確認「知」 発表「態」 プリント確認「思」 授業観察「思」	・便、尿の生成や排泄に関する基礎知識を理解している。「知」 ・排泄の意義としきみについて説明できる。「思」 ・障害が起きた時の利用者の状況がイメージできる。「態」 ・異常発見のための変化が観察できる。	
	12	「休息・睡眠」に関連したこころとからだのしきみ	1 休息・睡眠のしきみ 睡眠時間・レム、ノンレム・睡眠のしきみ 2 心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響 睡眠障害 3 変化の気づきと対応	休息や睡眠のしきみについて理解させる。併せて良質な睡眠のための環境条件や生活習慣を理解させる。睡眠障害が及ぼす影響と介助の内容について理解させる。	6	● ● ●	ドリル確認「知」 発表「態」 プリント確認「思」	・睡眠についての基礎知識を理解している。「知」 ・睡眠環境の条件整備について説明できる。「思」 ・睡眠障害の介助方法を理解している。「思」	
	期末考査				1				
	3 学 期	1 2	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしきみ	1 人生の最終段階に関する「死」のとらえ方 2 「死」に対するこころの理解 3 終末期から危篤状態、死後のからだの理解 4 終末期における医療職との連携	様々な死のとらえ方について理解させる。死の受容段階や家族への対応について理解させる。死後の身体的変化について理解させる。呼吸困難や疼痛緩和など終末期の変化を理解する。	4 4	● ● ● ●	授業観察「態」 ドリル確認「知」 プリント確認「思」 プリント確認「知」	・尊厳を保持した終末期について考えることができる。「態」 ・終末期におこる様々な変化についてイメージできる。「知」 ・変化に伴う対応方法を考えることができる。「思」 ・他職種連携について理解できる。
	3	こころとからだの理解のまとめ	1年間の振り返り学習	生活支援技術や介護実習に向けての総まとめを行う。	5	●	ファイル確認 確認テスト	利用者理解に向けて科学的根拠のありかを理解している。「知」	
	学年末考査				1				
	合 計				70				

総合評価における各観点の割合 知識・技術 50 % 思考・判断・表現 30 % 主体的に学習に取り組む態度 20 %

各評価方法・項目の割合 ①定期考査 30 %程度 ②レポート・ノート 30 %程度 ③実技・技術 20 %程度 ④授業態度 20 %程度

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2 単位	学年	1	指導者	佐々 由美子 岸本 仁美									
教科書	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)	副教材	家庭総合学習ノート Super Live View (東京書籍)															
科目的目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図る。(知識)</li> <li>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。(思考・判断・表現)</li> <li>よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。(態度)</li> </ul>																
目標達成に向けての取り組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。</li> <li>家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</li> <li>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</li> </ul>																
評価の観点及び趣旨	知識・技術	思考・判断・表現								主体的に学習に取り組む態度								
	人の一生と家族、家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な知識を科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から課題を発見し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。								様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。								

※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技能は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学期	月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点			評価方法 ・項目等	評価の規準等
						知	思	態		
1学期	4	「家庭総合」オリエンテーション	1 「家庭総合」の学習内容や学習方法について	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭科での学びが自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。</li> <li>ホームプロジェクトや家庭クラブの意義と進め方について理解する。</li> </ul>	8	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業観察</li> <li>ワークシート (思)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決する力を身に付けている。(思)</li> <li>活動の意義と実施方法について理解している。(知)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>衣生活を取り巻く課題など被服と人との関わりについて理解を深めている。(知)</li> <li>被服構成や被服製作について科学的に理解している。(知)</li> <li>衣生活の自立に必要な技術を身に付けている。(知)</li> </ul>	
			2 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について							
	5	衣生活をつくる	1 被服の役割を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>被服の社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。</li> <li>これまで学習してきた被服の機能、素材と管理の知識と応用しながら、目的に合った被服を製作するために、被服が身体の形に合わせてどのように構成されているかを理解する。</li> <li>被服製作の基本事項を確認し、被服の製作ができる。</li> </ul>	20	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業観察</li> <li>ワークシート (知)</li> <li>学習ノート (知)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>被服の社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。</li> <li>これまで学習してきた被服の機能、素材と管理の知識と応用しながら、目的に合った被服を製作するために、被服が身体の形に合わせてどのように構成されているかを理解する。</li> <li>被服製作の基本事項を確認し、被服の製作ができる。</li> </ul>		
			2 被服製作に向けて (エプロンの製作)							
	6		・手縫い、ミシン縫いの基礎を学ぶ							
			・エプロン・三角巾・巾着の製作							
	7		期末考查 (衣生活について)		1					
2学期	8	夏季休業	・ホームプロジェクト							
	9	衣生活をつくる	2 被服製作 (エプロンの製作)	<ul style="list-style-type: none"> <li>被服製作を完成させ、相互評価ができる、布を使った伝統的な生活の工夫を知り、現代に生かす。</li> </ul>	5	●	<ul style="list-style-type: none"> <li>製作作品</li> <li>ワークシート (態)</li> <li>学習ノート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人々と協働し、よりよい社会に向けて、衣生活の科学と文化について課題の解決に取り組もうとしている。(態)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。(態)</li> </ul>	
			3 衣生活の文化と知恵を学ぶ。							
		ホームプロジェクト発表	・実践内容について発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践課題を発表することを通して実践の成果や課題を共有する。</li> </ul>	3		●	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板を使って成果物を発表(態)</li> </ul>		

学期	月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点 知・思・態	評価方法 ・項目等	評価の規準等
2 学期	11	衣生活をつくる	5 被服を入手する	・被服の表示を調べ、品質を理解し、快適な衣生活を送る知識を習得する。	10	●	・ワークシート ・学習ノート (知)	・健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理に必要な情報の収集・整理ができる。(知)
			6 被服を管理する	・被服を長持ちさせるための管理方法を知り、そのような態度が環境保全にもつながることを知る。		●	・ワークシート ・学習ノート (知)	・被服管理と衛生について科学的に理解している。(知)
	12	人生をつくる	1 人生をつくる 2 家族・家庭をみつめる 3 これからの家庭生活と社会	・生涯を見通して自分のライフスタイルを考えることができるよう、様々な生き方について理解する。 ・よりよい家庭を実現するために、家族・家庭と私たちの生活の結びつきを理解し、社会制度としての法律を理解する。 ・仕事と家庭の両立や家庭と地域の結びつきについて理解し誰もが家庭や地域のよりよい生活を創造できるにはどのような社会を実現すればよいのか考えて実践しようとする。	10	●  ●  ●	・ワークシート ・学習ノート (知)  ・ワークシート ・机間指導 (思)  ・ワークシート ・学習ノート (態)	・生涯発達の観点から各ライフステージの特徴と課題、自立と意思決定の重要性を理解する。(知) ・家庭・家族の機能と家族関係、家族の法律について思考を深めている。(思) ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて青年期の自立と家族・家庭・社会の課題の解決に主体的に取り組み実践しようとしている。(態)
期末考查 (衣生活 人生をつくる )					1			
3 学期	3	経済生活を営む	1 情報の収集・比較と意思決定  2 購入・支払いのルールと方法  3 消費者の権利と責任	・自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 ・生活における様々な契約について理解し、販売や支払い方法が多様化の中で責任ある消費行動がとれるよう契約の重要性について考える。 ・消費者の権利と責任について理解し、どうすれば消費者市民社会が実現できるか考えて実践しようとする。	5	●  ●  ●	・ワークシート ・学習ノート (知)  ・ワークシート ・机間指導 (思)  ・ワークシート ・グループ学習 (態)	・消費生活の現状と課題・消費行動における意思決定について理解を深め、生活情報の収集・整理が適切にできる。(知) ・契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解を深めている。(思) ・自立した消費者として、責任ある消費について問題を見出し解決策を構想し課題を解決する力を身に付けている。(態)
			4 生涯の経済生活を見通す  5 家計をマネジメントする  6 これからの経済生活	・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。 ・生涯を見通して家計をマネジメントする力をつけるため、家計の構造やリスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて理解する。 ・大きく変化する世界経済の中で家計をマネジメントする力をつけるため、家計と地域経済・国際経済のつながりについて理解するとともにどうすれば持続可能な経済成長が実現できるか考えて実践しようとする。		●  ●  ●	・ワークシート (知) ・学習ノート  ・ワークシート (知)  ・人生ゲーム ・ワークシート (態)	・生涯を見通した生活における家計の管理や計画について理解を深めている。(知) ・リスク管理の考え方について理解を深めているとともに情報の収集・整理が適切にできる。(知) ・人々と協働しよりよい社会の構築に向けて消費行動と意思決定について、問題の解決に主体的に取り組んだり、自分や家庭・地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。(態)
			学年末考查 ( 経済生活を営む )		1			
合計					70			

◇ 「家庭総合」の総合評価における各観点の割合

知識・技能 50 % 思考・判断・表現 30 %

主体的に学習に取り組む態度 20 %

◇ 「家庭総合」の総合評価における各評価方法・項目の割合

① 定期考查 40 %程度

② レポート・ノート 10 %程度

③ 実技・技術 40 %程度

④ 授業態度 10 %程度

教科	福祉	科目	福祉情報	単位数	2 単位	学年	1	指導者	岸本 仁美 佐々 由美子						
教科書	福祉情報活用 (実教出版)			副教材	全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集 3級										
科目の目標		1 社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させるとともに、情報処理に関する知識と技術を習得させる。【知】 2 社会福祉や介護現場で生じる情報化の課題について考え、職業人としての倫理観を踏まえて、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を育成する。【思】 3 福祉の各分野で情報及び情報手段を主体的かつ適切に活用する能力と態度を育てる。【態】													
目標達成に向けての取り組み		情報機器や情報ネットワークを活用する基礎的な知識と技術を習得させ、社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させるとともに、情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。													
評価の観点及び趣旨	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度								
	現代及び今後の社会福祉に関する事柄に対する関心を高め、情報処理機器を活用することにより、福祉制度や福祉サービスの実際を理解する。			現代の社会福祉に関する課題を見いだし、他の福祉科目で学習した内容や各種資料を活用し、情報機器とプログラミング的思考用い、創造的に諸課題を解決する力を養う。			社会福祉に関する事柄に対する関心を高め、情報処理機器を活用することにより社会福祉の向上を図ろうとする態度を身に付けている。								

※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技能は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学期	月	單元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点 知 思 態	評価方法 ・項目等	評価の規準等
学 期	4	情報化の進展と生活産業	1 情報化の進展と社会 2 生活産業における情報化の進展	情報社会における情報モラルとネットワークセキュリティ管理の重要性について学び、情報社会に主体的に対応できる態度を育成する。	1 2	● ● ●	実技評価【知】 学習プリント【知】 【思】 自己評価【態】	・福祉情報活用を学ぶ目的を理解している。【知】 ・情報モラルの向上とセキュリティ管理の重要性について理解し、創造的に解決しようとしている。【思】 ・情報の管理やセキュリティについて主体的に取り組んでいる。【態】
	5	情報モラルとセキュリティ	1 ネットワーク社会の危険性 2 情報モラルとマナー					
	6	情報機器と情報通信ネットワーク	コンピューターのしくみ ハードウエア ソフトウエア	情報社会の進展を踏まえ、情報活用能力を育成する観点から、情報機器の仕組み及び情報機器を用いた情報処理や情報通信ネットワーク、プログラミングの仕組みについて取り扱い、理解させる。	1 3	● ● ●	実技評価【知】 学習プリント【態】 自己評価【思】	・コンピュータの基本機能や周辺機器の仕組み、プログラミングについて理解している。【知】 ・情報通信ネットワークの課題について、職業人に求められる倫理観を踏まえ、科学的な根拠に基づき創造的に解決しようとしている。【思】【態】
	7		情報機器の仕組みとプログラミング 情報通信ネットワークの仕組み					
		期末考查				1		
	8	夏季休業						

学 期	月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	価の観点 知・思・態	評価方法 ・項目等	評価の規準等
								・word の基本的な機能や操作方法を理解している。【知】
2 学 期	9	情報の処理・分析・発信	1 日本語ワードプロセッサの利用	各種アプリケーションソフトウェアに関する基礎的な知識や技術を習得し、活用させる。	15	● ● ●	学習プリント【知】 実技評価・自己評価【知】【態】	・word の基本的な機能や操作方法を理解している。【知】 ・速く正確にキーボードの操作をし、入力することができる。【知】【態】
	10							
3 学 期	11	情報の処理・分析・発信	2 表計算ソフトの利用	表計算ソフトの基本的な機能や操作方法などについて理解させるとともに、データ処理・グラフ作成などに関する基礎的な知識と技術を習得させる。	15	● ● ● ● ●	実技評価 学習プリント 自己評価 実技テスト	・エクセルの基本的な機能や操作方法を理解し、簡単なデータ処理や表作成をすることができる。【知】 ・収集した情報の表作成を行う。【知】【思】 ・画像や図表などでわかりやすく表している。【思】【態】
	12							
		期末考査			1			
3 学 期	1	情報モラルとセキュリティ	セキュリティ管理	福祉の分野における情報機器活用について、情報通信ネットワークを活用するとともに、個人情報の管理を含めた、ネットワークセキュリティ管理の重要性について学び、情報社会に主体的に対応できる態度を育成する。	12	● ●	実技評価・学習プリント【思】【態】 学習プリント【知】	・インターネットを使用し情報収集を行い、その処理を行うことができる。【思】【態】 ・情報セキュリティや著作権について理解している。【知】
	2	情報機器と情報通信ネットワーク	情報機器の仕組みとプログラミング 情報通信ネットワークの仕組み					
		学年末考査			1			
		合計			70			

◇ 「福祉情報」の総合評価における各観点の割合

知識・技術 40% 思考・判断・表現

30%

主体的に学習に取り組む態度

30%

◇ 「福祉情報」の総合評価における各評価方法・項目の割合

(例)  
① 定期考査 30%程度

③ 実技・技術 30%程度

② レポート・ノート 20%程度

④ 授業態度 20%程度

## 令和7年度 年間学習指導計画表【2年生】

教科	福祉	科目	社会福祉基礎	単位数	2 単位	学年	2年	指導者	榎友愛梨			
教科書	社会福祉基礎（実教出版）					副教材	社会の理解（中央法規）					
科目的目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉の理念と意義を理解し、社会構造やライフスタイルの変化をふまえた新しい福祉社会を実践する態度を育成する。【知】</li> <li>・社会福祉の歴史を理解し、現代社会における社会福祉の意義や役割を考える力を身に付ける。【思】</li> <li>・対人援助の技術や多様な社会的支援について理解し、実践的・体験的な学習活動を行うことで社会福祉に関する諸課題を主体的に解決する力を身に付ける。【態】</li> </ul>										
目標達成に向けての取り組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活と社会保障制度との関連について考えさせるとともに、対人援助の視点から福祉の支援が行われる必要性を理解させる。</li> <li>・社会保障制度の基本的な仕組みや社会福祉の各分野が生まれてきた社会的背景、各分野の課題について考えさせることをねらいとして取り組む。</li> </ul>										
評価の観点と趣旨	知識・技術 現代社会における社会構造の変容や特色について理解し、社会福祉に関する基礎的な知識を身に付けるとともに、社会福祉の意義や役割を理解し、福祉に関する諸活動に対応することを目指してその技術を適切に活用している。			思考・判断・表現 日常生活から派生する社会福祉に関する諸課題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に、福祉に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。			主体的に学習に取り組む態度 社会福祉に関心をもち、福祉社会に向けた課題に主体的に取り組むとともに、社会福祉に関する幅広い視野と福祉観や社会福祉の向上を図る実践的な態度を身に付けている。					

※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技術は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

2 学 期	9	生活を支える社会福祉・社会保障制度	基礎実習Ⅱ 後半 9月3日～9月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年金制度の体系とそれぞれの制度の対象者、給付の種類について理解させる。</li> <li>・雇用保険の歴史や意義、役割、内容について理解させる。</li> <li>・労働者災害補償保険についてその意義と役割、内容について事例等から理解させる。</li> </ul>	10		●	ワークシート確認テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・憲法25条生存権ともかかわりの深い制度であることを理解した上で学ぶ意欲と態度を身に付けている。【態】</li> <li>・年金制度のしくみと種類、内容について理解できている。【知】</li> <li>・雇用保険についての内容の理解と社会の情勢に応じて求められる内容の変化に気づく。【思】</li> <li>・労災の内容について理解している。【知】</li> </ul>
			中間考查						
	10	生活を支える社会福祉・社会保障制度	・社会保障制度のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各制度の目的と対象、内容について整理させる。</li> </ul>	8		●	ワークシート確認テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例から事故内容をそれぞれの保障制度に結びつけることができる。【思】</li> </ul>
	11 12	地域福祉の進展と多様な社会的支援制度	1 地域福祉の進展と地域の将来	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動の意義と役割、その状況について理解させる。</li> <li>・非営利民間福祉活動の意義と役割、その代表的なものである社会福祉協議会や協働組合、特定非営利活動法人について理解させる。</li> <li>・バリアフリー等、町の中の福祉の状況について理解させる。</li> <li>・地域生活を営む上で必要とされる様々な支援について理解させる。</li> <li>・権利擁護について学び、その具体的支援である成年後見制度と日常生活自立支援事業の支援について理解させる。</li> </ul>	8		●	ワークシート確認テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの意義と役割について理解するとともに自ら奉仕の精神と態度を身につける。【態】</li> <li>・それぞれの目的と活動内容について理解する。【知】</li> <li>・福祉のまちづくりについての具体的方策を理解し、自分たちが暮らしている地域のバリアフリー等の整備について知る。【知】</li> <li>・多様な社会的支援の種類と内容について理解する。【知】</li> <li>・成年後見制度と日常生活支援事業の内容と対象について理解した上で事例からあてはまる支援を導くことができる。【思】</li> </ul>
			2 多様な社会的支援制度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療</li> <li>・教育</li> <li>・雇用と就労支援</li> <li>・住宅と居住サポート</li> <li>・司法と福祉の連携</li> <li>・権利擁護と成年後見制度</li> </ul>					
	期末考查								
	3 学 期	地域福祉の進展と多様な社会的支援制度	3 社会福祉の将来と福祉の担い手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自助・公助・共助・互助についてそれぞれの具体例から理解させる。</li> <li>・ホームレスや引きこもりなど多様なニーズを知り、対応について学ぶ。</li> <li>・専門職と資格と活躍する現場について理解させる。</li> <li>・社会変動を知り、その中の社会福祉の役割とそのために必要な社会資源について理解させる。</li> </ul>	12		●	ワークシート確認テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自助・公助・共助・互助について具体例を理解できている。【知】</li> <li>・現代社会のニーズとその対応について理解できている。【知】</li> <li>・専門職について学ぶとともに自らの進路を考え行動できる。【態】</li> <li>・社会福祉の必要性とその中で自分ができることやしなければならないことに気づく。【思】</li> </ul>
			学年末考查						
			合計						

◇「社会福祉基礎」の総合評価における各観点の割合

知識・技術 50% 思考・判断・表現 30%

主体的に学習に取り組む態度

20%

◇「社会福祉基礎」の総合評価における各観点の割合

① 定期考查 60%程度

② レポート・ノート 20%程度

③ 小テスト 10%程度

④ 授業態度 10%程度

教科	福祉	科目	介護福祉基礎	単位数	2 単位	学年	2	指導者	原 佐緒理 ・ 新田 剛司	
教科書	介護福祉基礎（実教出版）									
科目の目標		1 介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護を行う上での基本的な考え方を習得させる。【知】 2 介護の現代的意義や役割について考えさせ、介護を取り巻く状況や介護福祉サービスの確立や様々な社会的対応について理解させる。【思】 3 介護を必要とする人に対して自立支援の観点に基づき、自己実現が達成されるよう適切な介護福祉サービスを提供できる能力と態度を育成する。【態】								
目標達成に向けての取り組み		・介護を取り巻く社会状況を理解させ、介護従事者として国民の求める介護従事者としての職業観を育成する。 ・サービス利用者のプライバシーや人権尊重の意義を人間としての尊厳の保持するための介護の必要性に関連づけて理解させる。 ・介護を必要とする人の生活について理解し、介護保険法や障害者自立支援法の内容について具体的に理解させる。 ・介護者の安全や倫理について介護実習の取り組みと関連づけて体験的に学習させる。								
評価の観点及び	知識・技術 介護に必要な知識や意義、役割について体系的・系統的に理解していると共に、関連する介護技術を身につけています。			思考・判断・表現 介護に関する諸問題の解決を目指して思考を深めたり、判断したり、表現したりしている。また、介護に関する諸問題を発見し、介護者としての倫理観を踏まえて、合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。			主体的に学習に取り組む態度 より良い介護を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけています。			

※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技術は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学期	月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点	評価方法	評価の規準等			
						知	思				
1学期	4	第2編 介護福祉の担い手	4 介護実践における連携 ～協働する多職種の役割と機能～ ・多職種連携とチームケア ・介護と医療 ・介護支援専門員とケアチームの連携 ・介護従事者とボランティアの連携	介護に関わる様々な職種やチームケアの目的と意義について学ばせる。保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解させ、医療従事者や関連する専門職との連携について学ばせる。介護支援専門員の役割や専門性、ケアマネジメント業務に必要な取り組みを学ぶ。超高齢社会が抱えている課題を理解し、地域での生活を維持するために必要な地域包括ケアシステムやボランティアの役割を考察させる。	4	●		学習プリント・小テスト【知】 学習プリント【思】 授業観察・プリント【態】			
	5				2		●				
	中間考查		6 第3編 介護を必要とする人の理解と支援	2 高齢者の生活と支援 ・高齢者の活動 ・高齢者を取り巻く環境の考え方 ・高齢者の生活支援  3 障がい者の生活と支援 ・障害とは ・身体障害（肢体不自由・視覚障害・聴覚言語障害・内部障害）者の生活と支援 ・知的障害者の生活と支援 ・発達障害者の生活と支援 ・精神障害者の生活と支援	1		●	・多職種連携に必要な専門職についての基本的な知識を身につけている。【知】 ・多職種連携の必要性を理解し、ケアマネジメント業務における諸問題について考え、創造的に解決しようとしている。 ・地域社会の役割について主体的に考察している。【態】			
	6				6	●	●				
					6	●	●	・高齢者の社会参加について理解している。【知】 ・高齢者の環境を理解し正しい知識を身につけている。【知】 ・高齢者の生活支援について理解し、主体的に考察している。【態】  ・障がい者の生活と支援について理解し、正しい知識を身につけている。【知】 ・障害の種類とその障害の特性に応じた支援の方法を創造的に解決しようと考えている。【思】 ・障がい者の生活環境の整備について理解し、主体的に考察している。【態】			
						●	●				
	7	期末考查			1						

学期	月	単元	学習内容・活動等	ね ら い	配当時間	評価の観点 知・思・態	評価方法 ・項目等	評価の規準等
2学期	7	介護実習(7月9日～7月24日)						
	8	夏季休業						
	9	介護実習(9月3日～9月25日)	4 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ ・高齢者を支える介護のあり方 (在宅/施設 介護福祉サービス) 6 介護過程	校内で学習した知識と実際の介護現場における高齢者の生活とを結びつけ、高齢者個々に応じた支援について理解させる。 介護過程における ICF の視点に基づくアセスメントの位置づけを理解させ、得られた情報から生活課題を明らかにしていく方法を考察させる。	8	● ● ●	実習記録 【知】【思】【態】	・実際の利用者の状態を観察し適切に記録できる。【思】 ・介護過程のアセスメントにおいて、の諸課題を発見し解決しようとしている。【知】【態】
	10	第4編 介護における安全確保と危機管理 (リスクマネジメント)	3 感染対策 ・感染症の理解 ・感染症の予防対策 ・介護現場で出会うことの多い感染症	感染症の仕組みを理解し、法律に基づいた対策を学ぼせる。感染症の基本的な予防策を理解し、介護施設における感染対策の必要性について学ばせ、代表的な感染症の原因、感染経路、症状について理解し、感染対策について考察させる。	8	● ● ●	学習プリント 【知】【思】【態】	・感染症について理解し、正しい知識を身に付けている。【知】 ・感染症に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。【思】 ・利用者の安全で安心な暮らしを守るために、感染症の原因やその対策について主体的に考察している。【態】
	11	中間考査			1			
	12	第4編 介護における安全確保と危機管理	1 介護における安全と事故対策 ・介護におけるリスクマネジメント ・事故予防のための対策 ・介護現場で多い事故 ・身体拘束の禁止 ・介護現場における防災対策	安全で安心な暮らしを守るために、リスクが生じやすい場面やその対応、リスクマネジメントについて学ぼせる。安全で安心な暮らしを守るために、事故予防の取り組みや組織としての対応を学ぼせる。高齢者の身体的・心理的特徴をふまえて、生じやすい事故について理解し、事例を通して改善や防止策を考察する。また、安全で安心な暮らしを守るために、日頃から準備をしておくことを理解し、防災時に福祉施設が担う役割を考察させる。	10 8	● ● ● ● ●	学習プリント 【知】  授業観察【態】  学習プリント 【態】	・介護のリスクマネジメントを理解し、正しい知識を身に付けている。【知】 ・介護の事故予防を理解し、日常生活において実践できる。【態】 ・介護現場で生じる諸課題について主体的に考察している。【態】 ・防災対策や防災時の福祉施設の役割について主体的に考察している。【態】
		期末考査			1			
3学期	1	第4編 介護における安全確保と危機管理	2 介護従事者の健康管理 ・健康管理の重要性 ・心理面の健康管理 ・身体面の健康管理 ・労働安全衛生に関する知識	介護従事者の健康管理が介護の質に関わることを理解させ、健康管理の重要性を学ぼせるとともに必要な対策や制度を理解させる。介護従事者としてのメンタルヘルスケアの必要性について理解し、介護とストレスについて考察させる。より良い介護を提供するため、介護従事者の身体面の健康管理が必要なことを理解し、腰痛予防策や機器の利用方法を学ぼせる。	6	● ●	学習プリント 【知】【思】	・健康管理の重要性を理解し、正しい知識を身につけている。【知】 ・心理面の健康管理に関する諸課題を発見し解決しようとしている。【思】
	2		4 福祉用具と介護ロボット ・福祉用具と介護ロボットの必要性 ・福祉用具と介護ロボットの有効的な活用	利用者の尊厳を守り、自分らしい生活を実現するために福祉用具を活用することを理解しそのような影響があるか考察させる。	6	● ●	授業観察・学習プリント【態】 確認テスト【知】	・労働安全衛生について主体的に考察している。【態】 ・福祉用具について理解し正しい知識を身につけている。【知】 ・福祉用具を活用することで諸課題を発見し、解決しようとしている。【思】
	3				1	● ●	学習プリント・発表【思】【態】	・今後の福祉用具の活用について主体的に考察している。【態】
		学年末考査			1			
		合計			70			

◇ 「介護福祉基礎」の総合評価における各観点の割合  
知識・技術 50 % 思考・判断・表現 30 % 主体的に学習に取り組む態度 20 %

◇ 「介護福祉基礎」の総合評価における各評価方法・項目の割合  
① 定期考査 50 %程度 ② レポート・ノート 20 %程度 ③ 実技・技術 20 %程度

④ 授業態度 10 %程度

教科	福祉	科目	生活支援技術	単位数	3 単位	学年	2	指導者	新田剛司 原佐緒理 亀島木綿子
教科書	生活支援技術 (実教出版)					副教材	最新介護福祉士養成講座6 生活支援技術I (中央法規) 最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術II (中央法規)		
科目的目標	(1)自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解させ、基礎的な介護の知識と技術を習得させる。(知識・理解) (2)様々な介護場面において適切かつ安全に支援できる方法を考え実践する。(思考・判断・表現) (3)生活支援における課題について関心を持ち主体的に課題に取り組む態度を育成する。(態度)								
目標達成に向けての取り組み	(1)「こころとからだのしくみ」の授業と運動させ、科学的な知識の裏付けによる支援の必要性や方法を理解する。 (2)生徒自身が利用者役・介護者役になることで、利用者との人間関係について理解し基礎的なコミュニケーション能力の育成を図る。 (3)利用者の生活や個別性、尊厳を踏まえた生活の自立について理解し、それに必要な実際的な支援の方法が提供できるよう考える態度を養う。								

※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技術は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学期	月	單 元	学習内容・活動等	ね ら い	配当時間	評価の観点 知 思 態	評価方法 ・項目等	評価の規準等
1	4	オリエンテーション	○2年次の授業内容と授業の進め方 ○実習時の確認事項	・1年次の学習をふまえ、サービス利用者の尊厳を保持した自立支援の方法、基本的な心身状態の観察や実際の介護の方法について理解させる。	10	●	プリント・ワークシート【知】	・2年次の生活支援技術について学習すべき内容をイメージし、食事の意義と咀嚼・嚥下のしくみが理解している。【知】
学 期	5	食事の介護	○自立に向けた食事の介護 食事における介護技術 ・食事の意義、咀嚼・嚥下について ・疾患や咀嚼・嚥下の状態に応じた食事の内容や形態について ・食事介助（一部介助） ・食事介助（全介助）	・食べる意欲を支える介護や安全で安楽な食事の介護などを取り上げ、身体機能の低下や食事介護を必要とする利用者の状態に応じた食事について基礎的な知識と技術を習得させる。 ・心身の状態に応じ、誤嚥なく安全で「おいしい」と感じる食事を提供できる介助技術を習得させる。	20	● ● ● ●	実技練習観察【知】【思】 レポート【態】 自己評価【知】	・利用者が安全で満足できる食事を摂れる介助ができる。【知】 ・レポートを期日に提出できる。【態】 ・心身の状態に応じた（一部介助・全介助）介助が提供でき、自立に向けた、安全で満足できる食事介助の技術を身につけている。【知】
		中間考査			1			
	6	入浴・清潔保持の介護	○自立に向けた入浴・清潔保持の介護 入浴・清潔保持の意義と目的 入浴・清潔保持における介護技術 ・足浴 ・洗髪 ・清拭	・入浴や清潔保持の意義や目的について理解するとともに、入浴の楽しみを支える介護、プライバシーに配慮した安全で安楽な方法について学ぶ。 ・自立に向けた清潔保持の方法に関する基礎的な知識と技術を習得させる。 ・観察の必要性や入浴に伴う事故の予防と安全な浴室環境の整備などの留意点について理解させ事故時の対応についての知識と技術も習得させる。 ・体位変換、移乗・移動、歩行介助、着脱介助、車椅子移動介助、排泄介助、食事介助、清潔介助について介助の練習をすることにより介助の手法とその科学的根拠を確認させる。	13	● ● ● ●	ワークシート【知】 実技練習観察・レポート【思】 自己評価【態】	・清潔介助が必要な利用者に対しての配慮点を理解している。【知】 ・清潔介助が必要な利用者に対しての配慮点を理解し、必要な物品を準備している。【思】 ・各自が役割を認識し、連携が取れ利用者の安全、安楽やプライバシー配慮した行動がとれている。【態】
	7	技術確認	○介護実習に向け介助技術を復習する		4	●	実技練習観察【思】	・安全で安楽で、自立支援を促し、利用者の尊厳が保持できる介助ができる、利用者の安心と納得につながる声かけができる。【思】
		期末考査			1			
		基礎実習II	7月9日～7月24日（10日間）					

学 期	月	单 元	学習内容・活動等	ね ら い	配当 時間	評価の観点 知・思・態	評価方法 ・項目等	評価の規準等	
2 学 期	9	基礎実習Ⅱ 9月3日～25日(13日間)	入浴・清潔保持における介護技術 ・機械浴	・機器の作動状況の確認や操作方法の習得、事故の予防と、安全な浴室環境の整備などの留意点について理解させ、それぞれの非常時の対応についての知識と技術も習得させる。 ・チームケアを体験し、役割を果たす重要性を理解し責任感を身につけさせる。	10	● ● ● ●	実技練習観察【態】 実技練習観察レポート【思】 実技練習観察自己評価【知】【態】	・基本的な機器操作や環境整備の方法が習得できる。【知】 ・利用者状態に応じた物品が準備できる。【思】 ・利用者の安全や安楽の確保や尊厳が保持できる行動がとれている。【知】【態】	
	中間考査					1			
	10	身じたくの介助	○口腔の清潔 ・歯磨き ・口腔清拭	・清潔介助と関連して身じたくへの意欲や装いの楽しみ、社会参加を支える介護などを取り上げ、利用者の状態に応じた整容を含んだ清潔保持における基礎的な知識と技術を習得させる。 ・口腔ケアが疾患予防にもつながることを認識させた上で適切な口腔ケアの技術を身につけさせる。	12	● ● ● ● ●	実技練習観察【知】 レポート【思】 自己評価【態】 実習観察【思】 レポート【知】	・身じたくと社会参加の関連や口腔ケアの重要性を理解している。【知】 ・利用者に応じた物品が準備できている。【思】 ・利用者の安全、安楽やプライバシーに配慮した行動がとれている。【態】 ・利用者の希望を尊重し、適切な介助方法が選択できる。【思】 ・利用者の自立支援につながる介助について理解している。【知】	
	11	緊急時の対応	○想定される事故と予防の視点 ○緊急時の連携 応急処置の実際 ・圧迫止血・骨折の手当て ・誤嚥時の処置・熱傷の処置	・緊急時における介護の意義や目的について理解させ、日常生活における危険の予防や高齢者におこりやすい緊急事態と適切な対応に関する基礎的な知識と技術を習得させる。	14	● ● ● ●	実技練習観察【知】 レポート【態】 確認テスト【知】【思】	・緊急時における連携について理解できている。【知】 ・高齢者の起こりやすい事故とその予防方法を理解できている。【態】 ・応急処置の実際を習得できている。【知】【思】	
	12	応急処置・緊急時対応の実際	○一次救命処置 ・心肺蘇生法・AED	・一時救命処置の対応における基本的な手順と方法を理解させる。	4	●	実技テスト【知】	・一次救命処置の手順と方法を理解し実践できる。【知】	
	期末考査					1			
	3 学 期	1 2 3	医療依存度の高い高齢者のケア	○医療的処置 ・浣腸 ・ストーマ ・導尿 ・服薬	・介護現場で実際に行われることのある医療的な処置について具体的に理解し、処置の対象者である高齢者の心身の状態について理解させる。 ・介護職に求められる医療的ケア実施の基礎について理解し、基礎的な知識と技術を習得させる。	13	● ● ● ● ●	実技練習観察【知】 レポート【思】 DVD視聴【知】 レポート【思】 実技練習観察【思】【態】	・利用者の状態を理解し、どのような医療的処置が必要か理解することができる。【知】 ・介護実習中に関わった利用者から医療の必要性や連携について考えることができる。【思】 ・さまざまな利用者に対応できる知識を習得できる。【知】 ・それぞれの処置についてイメージし、利用者の安全・安楽のために何ができるか考えることができる。【思】 ・医療的な処置を必要としている利用者について理解しながら、安全安楽な介助ができる。【思】【態】
	学年末考査					1			
	合 計					105			

◇「生活支援技術」の総合評価における各観点の割合

知識・技術 40 % 思考・判断・表現 30 %

◇「生活支援技術」の総合評価における各評価方法・項目の割合

① 定期考査 40 %程度 ② レポート・ノート 20 %程度

主体的に学習に取り組む態度

30 %

③ 実技・技術 30 %程度

④ 授業態度 10 %程度

教科	福祉	科目	介護過程	単位数	2 単位	学年	2	指導者	新田 剛司	
教科書	介護過程（実教出版）									
科目的目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>介護過程の意義と目的やそのプロセスを正しく理解することができる。【知】</li> <li>尊厳の保持と自立支援の観点に基づいて、実際に介護過程が展開できる能力と態度を育てる。【思】</li> <li>介護を必要とする利用者の生活を理解し、主体的に支援の内容を考え、実践する能力を育てる。【態】</li> </ul>								
目標達成に向けての取り組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>サービス利用者が人間としての尊厳を保持しながら自立した豊かな生活が送れるようにするための、介護過程の意義や役割について理解できる。</li> <li>他科目で学んだ知識や技術を生かして、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる実践的な能力や態度を身につけることができる。</li> </ul>								
評価の観点及び趣旨	<b>知識・技術</b> 介護過程の目的と意義、その必要性について理解する とともに、他科目での学びと関連づけながらアセスメントや計画立案の具体的な方法について理解していると共に、介護従事者としての必要な実践能力を身につけてい			<b>思考・判断・表現</b> 介護過程において、サービス利用者の尊厳の保持と自立のためにどのような支援が必要であるか思考し、アセスメントや計画の立案等によって介護従事者としての総合的な判断や表現ができる。			<b>主体的に学習に取り組む態度</b> 他科目に関して学んだ基本的知識や技術を生かして、サービス利用者一人ひとりに応じた適切な介護を実践するため、必要となる思考と実践のプロセスが介護過程であることを主体的に学ぼうとしている。			

※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技術は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学期	月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点 知・思・態	評価方法 ・項目等	評価の規準等
学 期	4	介護過程の意義と目的	介護過程とは 介護過程の目的と人（相手）を理解すること 課題解決の援助 介護過程の意義と基礎的理解 介護過程の各段階	生活における目的について理解し、 介護過程における目的と利用者理解について学ぶ。 サービス利用者の生活支援において 介護過程が必要であることを理解する。 介護過程の各段階の構成要素を理解する。	5	● ●	ワークシート【知】 レポート【態】	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護過程における目的と目標の意義について学習すべき内容が理解できている。【知】</li> <li>生活支援において必要な介護過程という思考過程を理解し、活用できる。【態】</li> </ul>
	5	介護過程の理解	介護過程におけるニーズ 様々なニーズとその明確化 介護過程の全体像 アセスメント・計画立案・実施・評価 情報収集とアセスメントの実際	様々なニーズの判断と課題解決の方法について理解する。 介護過程の全体像を理解する。日常生活の支援が場面ごとの単発ではなく、個別の情報収集→計画→実施→評価のサイクルの繰り返しの中で行われていることを理解する。	8	● ●	ワークシート【思】 レポート【態】	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護過程の全体的像が具体的な事例を通して理解できている。【思】</li> <li>ICFの視点によるアセスメントとその実施方法が理解できている。【態】</li> </ul>
		中間考查			1			
	6	介護過程の展開	介護過程の実践的展開 介護過程の展開の理解 事例での介護過程の展開 アセスメントの実際	情報を収集する際に「事実」をどのようにとらえるか、また、記録の注意点を理解する。支援者が把握すべき「事実」のカテゴリーを理解する。	8	● ●	ワークシート【思】 レポート【態】	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護過程の展開が理解できている。【思】</li> <li>情報の取捨選択ができ、整理することができる。【態】</li> </ul>

学 期	月	单 元	学習内容・活動等	ね ら い	配当 時間	評価の観点 知・思・態	評価方法 ・項目等	評価の規準等	
1 学 期	7	介護過程の展開	基礎実習	受け持ち利用者のアセスメントができる。	2	●	自己評価 実習記録【知】	・受け持ち利用者の情報収集とアセスメントが実施できている。 【知】	
		期末考査	基礎実習Ⅱ	7月9日～7月24日	1				
	8	夏季休業							
2 学 期	9	基礎実習Ⅲ	9月3日～9月25日						
	10	介護過程の展開	基礎実習 基礎実習における介護過程の展開 実習の振り返りからの介護過程の展開	実習で受け持った利用者について収集した情報を、実習記録等をもとにまとめることができる。	6	●	実習記録 ワークシート【知】	・記録ができている。 ・実習を振り返り、受け持ち利用者の情報についてまとめができる。 【知】	
	11	中間考査	介護過程の展開	現場での情報収集とアセスメントの確認 記録の確認	アセスメントの整理、確認ができ、それに基づき、受け持ち利用者の生活課題(ニーズ)を考えることができる	7	●	ワークシート【思】	・収集した情報をもとにアセスメントを整理し、共有できるようわかりやすくまとめができる。 【思】
	12	介護過程の展開	アセスメント整理・まとめ 生活課題の明確化	受け持ち利用者のアセスメント等の共有がはかれるようにわかりやすくまとめることができる。 受け持ち利用者が抱えている生活課題(ニーズ)を明確化することができる。	7	● ●	ワークシート 自己評価【知】 レポート【思】	・実習を振り返り、まとめができる。 【知】 ・アセスメント整理ができ、担当利用者の生活課題(ニーズ)を把握している。 【思】	
		期末考査	介護過程の展開まとめ	介護過程の一連の流れを、理解している。	5	●	ワークシート【思】	・授業で学んだ介護過程のプロセスと実際のアセスメントを照らし合わせ、再度介護過程の一連の流れとその要点を確認し、理解している。 【思】	
3 学 期	1	介護過程の展開	実習における介護計画作成	受け持ち利用者の生活課題(ニーズ)から長期目標、短期目標、具体的な支援内容の順に考え、介護計画を立てることができる。	8	●	レポート 発表態度 自己評価 ワークシート【知】	・受け持ち利用者の自立支援に繋がる介護計画の立案ができる。 【知】	
	2		実習における介護計画作成 介護計画発表	受け持ち利用者のアセスメントから介護計画立案までの過程等を分かりやすくまとめ、発表することができる。	7	●	ワークシート【知】	・報告が分かりやすく整理し、発表することができる。 【知】	
	3		実施と評価 準備と留意点 ケアマネジメントの全体像	介護過程における実施、評価についてその内容を理解できる。	2	● ●	レポート【態】 ワークシート【思】	・実施と評価の意義・目的・内容の実践等が理解できている。 【態】 ・ケアマネジメントの全体像と多職種連携についてが理解できている。 【思】	
		学年末考査			1				
		合 計			70				

◇「介護過程」の総合評価における各観点の割合

知識・技術 50% 思考・判断・表現 30%

主体的に学習に取り組む態度

20%

◇「介護過程」の総合評価における各評価方法・項目の割合

① 定期考査	30%程度	② レポート・ノート	20%程度
③ 実技・技術	30%程度	④ 授業態度	20%程度

教科	福祉	科目	介護総合演習	単位数	1 単位	学年	2	指導者	新田 剛司 原 佐緒理									
教科書	準教科書 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習（中央法規）	副教材																
科目的目標		福祉の見方・考え方を働きかせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の創造と発展に必要な資質・能力を育成することを目指す。 1 社会福祉や介護について、実際の現場で専門的な知識と技術の深化、総合化を図るため、事前準備を通じて体系的に理解させる。【知】 2 介護現場における実習前・中・後の学習を通じて職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。【思】 3 演習や実習後のまとめ、事例研究を通じ、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、課題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を養う【態】																
目標達成に向けての取り組み		(1) 介護者の安全や倫理について介護実習の取り組みと関連づけて体験的に理解できるようにする。 (2) 生徒の興味・関心・進路・地域の実態に応じた演習テーマを主体的に考えることができるよう配慮する。 (3) 介護実習を通じて、生徒が自己の課題を考え、介護従事者としての意識を持てるようにする。																
評価の観点及び趣旨	知識・技術	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度													
高齢者や障害者に対しての介護に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、介護の意義や役割を理解している。また、高齢者や障害者に対する基礎的・基本的な介護技術を身につけ、介護活動を計画し、適切に処理するとともに、その成果を的確に表現する。		介護に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、介護活動の現状について適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けている。			介護に関する諸問題について関心を持ち、よりよい介護を目指して、意欲的に取り組むとともに創造的・実践的な態度を身に付けている。													

※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技術は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学期	月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点 知 思 態	評価方法・項目等	評価の規準等
1 学期	4 5	介護実習とは  ○介護実習の意義と目的 ・介護実習（基礎実習Ⅱ）の内容 ・介護実習の達成課題と達成目標  ○実習事前準備 ・実習における健康管理・実習前健康診断・実習生プロフィール作成 ○実習施設・利用者の概要	○介護実習の意義と目的 ・介護実習（基礎実習Ⅱ）の内容 ・介護実習の達成課題と達成目標  ○実習事前準備 ・実習における健康管理・実習前健康診断・実習生プロフィール作成 ○実習施設・利用者の概要	・介護実習の事前指導などを通じて、総合的な学習を行うことで介護実習を円滑に進めるとともに、介護実習の課題や成果を明確にさせる。	3	● ● ●	ワークシート【知】 レポート【思】 実習生プロフィール、授業観察【態】	・介護実習の目的と内容が説明できる。【知】 ・実習の準備学習として、各自の実習施設の概要や施設利用者の心身の状態を理解している。【思】 ・介護実習の意義を理解し、主体的に学ぼうとしている。【態】
	中間考査				1		考查	
	6	○実習記録 ・実習記録を書く際の留意点	○実習記録 ・実習記録を書く際の留意点	・実習施設の概要や主な業務内容、危機管理や個人情報保護等、実習における心得や実習評価について理解させる。	3	● ●	実習記録【知】 評価票【思】	・基礎実習Ⅱの記録の基本的記入方法を習得できている。【知】 ・主体的に目標を設定できている。【思】
	7	事前指導  ○実習施設オリエンテーション ・各種書類作成とその意義 ・施設事前打ち合わせ ・通学方法確認 ○カンファレンスについて ○実習生としての基本事項の確認	○実習施設オリエンテーション ・各種書類作成とその意義 ・施設事前打ち合わせ ・通学方法確認 ○カンファレンスについて ○実習生としての基本事項の確認	・介護実習内容の確認を行い、サービス利用者にとって安全・安楽な介護を工夫するとともに、自立生活支援に向けた介護技術の提供や課題解決に向けた介護過程の展開についても理解させる。	4	● ●	事前実習打ち合わせ記録・実習記録【知】 実習記録（態度） 授業観察	・実習記録を適切に書くことができ、カンファレンスの意義や進め方を理解している。 ・基本的介護技術の習得、利用者や職員とコミュニケーションが図ろうとしている。
	期末考査				1		考查	
	基礎実習Ⅱ 7月9日～7月24日（10日間）							

学 期	月	单 元	学習内容・活動等	ね ら い	配当 時間	評価の観点			評価方法 ・項目等	評価の規準等
						知	思	態		
学 期	8	夏季休業	○実習中の健康管理 ○後半実習に向けて	・適切な記録方法を習得させる。 ・アセスメントの技術確認とレクリエーションプログラムの準備	4	●	●		実習記録【知】 アセスメント用紙・レク計画【思】	・実習の記録方法と健康管理や感染対策について理解している。【知】 ・アセスメント技術の確認と、レクリエーションプログラムの準備ができている。【思】
	9	基礎実習Ⅱ 9月3日～9月25日(13日間)	○介護実践の科学的探究 ○実習中の健康管理	・各自の実習の課題を明確にさせ、実習に活かす。	3		●		実習評価票【態】	・個別の利用者を理解するため、主体的に利用者のアセスメントを行おうとしている。【態】
	10	中間考查			1					
	11	事後学習・確認	○実習の振り返り ・実習記録からの振り返り ・実習のお礼 ・実習後感想文 ○目標の達成状況と次への課題 ・実習レポートからの振り返り ・実習報告会 ○在宅系サービスの種類と体系・訪問介護・訪問介護・通所介護 ○地域包括支援センター	・介護実習のまとめなどを通して、各自の実習の成果や課題を明確にさせ、実習における介護技術やコミュニケーションなどについて評価することで、知識と技術を統合させる。	9	●	●	●	自己評価【知】 発表材料(ラボ、冊子)【思】 相互評価票・授業観察【態】 ワークシート【知】	・自己評価ができる。【知】 ・実習先で体験したことを振り返り、整理し、実習後の報告を班員と協力して行うことが出来る。【思】【態】 ・訪問介護、介護サービスの概要や地域包括支援センター等の関連機関の概要を体験を踏まえて理解しようとしている。【知】
	12	期末考查			1				考査	
	1	応用実習事前指導	○訪問介護員の倫理 ○応用実習に向けた自己覚知と達成課題 ・介護過程	・実習を通して学んだことをもとに更なる学習の深化に努め、情報の共有化を図るとともに、職業倫理についても考えさせ、介護従事者としての意識を高めさせる。	4	●	●		レポート【思】 実習記録・ワークシート【知】	・応用実習がイメージできる。【思】 ・介護過程を踏まえた記録やアセスメントについて理解できる。【知】
	2	学年期末考査			1				考査	
	3	合 計			35					

◇「介護総合演習」の総合評価における各観点の割合

知識・技術 30% 思考・判断・表現 30% 主体的に学習に取り組む態度 40%

◇「介護総合演習」の総合評価における各評価方法・項目の割合

① 定期考査 50%程度 ② レポート・ノート 20%程度 ③ 実技・技術 20%程度 ④ 授業態度 10%程度

教科	福祉	科目	介護実習	単位数	5 単位	学年	2年	指導者	新田剛司 原 佐緒理 亀島木綿子 岸本 仁美 仙友愛梨 佐々由美子	
教科書	準教科書 最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習（中央法規）									
科目的目標		福祉の見方・考え方を働かせ、多様な介護の現場で実習を行い、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の創造と発展に必要な資質・能力を育成することを目指す 1 社会福祉や介護について、専門的な知識と技術を実際の現場において体系的・系統的に理解させる。【知】 2 実際の介護現場での学びを通して、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。【思】 3 多様な介護の場で実習を行うことを通し、健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、自発的、創造的な実習態度を養う。【態】								
目標達成に向けての取り組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>介護実習がサービス利用者の生活空間で行われるため、実習指導者と実習の目標を共有するなど連携を図りながら、各段階に応じた目標を明確にして、意欲的に実習に取り組むことができるよう配慮する。</li> <li>多様な介護の場においてサービス利用者一人一人の生活や個性を尊重して実習できるよう、実習生としての意欲、礼儀、態度等を指導する。</li> <li>福祉に関する他の専門科目で学習した知識や技術を統合しながら介護を行うとともに、多職種協働における介護従事者の役割や職業倫理について理解させる。</li> </ul>								
評価の観点及び趣旨	知識・技術			思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度		
福祉施設における高齢者や障害者の介護や福祉制度のあり方について科学的に理解する。また、社会福祉や介護に関して学んだ基本的知識や技術を活用して、高齢者や障害者の総合的介護において、総合的に援助の技術を用いることができる。		社会福祉に関して学んだ基本的知識や技術を高齢者や障害者の総合的介護における対人援助場面において、統合的に思考し判断し表現できる。				社会福祉に関して学んだ基本的知識や技術を、高齢者や障害者の総合的介護における対人援助場面において、実践して主体的に学ぼうとする。また介護実習を通じて介護専門職の職業観、勤労観を身に付ける。				
※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技術は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。										
学期	月 单元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点 知:思:態	評価方法 ・項目等	評価の規準等			
1 学期	4									
	5 事前健康診断	(胸部撮影)	・介護現場における感染症の実態を取り上げ、感染予防の意義と必要性について理解させ、自身の健康管理を意識させる。  ・特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、グループホーム、障害者支援施設、医療型障害児入所施設において基本的な介護技術を実践するとともに、自立生活支援のために多職種連携の実践をしながら介護が提供されていることについて理解させる。 ・レクリエーションの実施に向けて、利用者の特性をアセスメントし、計画を立てる。	112	● ● ●	実習前の検査や検診【態】  実習態度・介護技術・実習記録・実習評価表  巡回指導	・所定の検診や検査を受診できる。【態】  ・実習への心構えや事前準備ができている。【態】 ・実習目標を理解し、記録の基本的記入方法を習得している。【知】 ・利用者や職員とコミュニケーションが図られている。【思】【態】			
	6 事前健康診断	(検便、細菌検査) ○実習施設事前打ち合わせ（実習オリエンテーション）								
	7 介護実習（基礎実習 II）	○実習施設における介護技術の実践、コミュニケーションの実践、地域における生活支援の実践、多職種協働の実践 (7月9日～7月24日)								
2 学期	8 夏季休業									
	9 介護実習（基礎実習 II）	○実習施設における介護技術の実践、コミュニケーションの実践、レクリエーション援助活動の実践、アセスメントと課題抽出の実践 (9月3日～9月25日)	・介護技術の実践を行うとともに、レクリエーションを実施する。また、一定期間担当した利用者について生活課題や介護目標について考え、支援する。（アセスメントの実践）	80	● ● ●	レクリエーション計画・アセスメント表・自己評価・実習レポート 【知】【思】【態】	・担当利用者のアセスメントを行い、課題の抽出ができる。【知】【思】【態】 ・レクリエーションを計画し、適切に実施できる。【思】【態】			
	10～11									
	12 冬季休業									
3 学期	1									
2	2									
3	3									
	合 計			192						

◇ 「介護実習」の総合評価における各観点の割合

知識・技術 30 % 思考・判断・表現 30 %

主体的に学習に取り組む態度

40 %

◇ 「介護実習」の総合評価における各評価方法・項目の割合

① 定期考查 0 %程度 ② レポート・ノート 30 %程度 ③ 実技・技術 30 %程度 ④ 授業態度 40 %程度

教科	福祉	科目	こころとからだの理解	単位数	1 単位	学年	2	指導者	原 佐緒理					
教科書	こころとからだの理解（実教出版）				副教材	最新介護福祉士養成講座1.2 発達と老化の理解（中央法規出版）								
科目の目標		福祉の見方・考え方を働きかせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、介護を実践するための人間の理解に必要な資質・能力を育成することを目指す。 (1) サービス利用者の状況に合った自立生活の支援を行ううえで必要なこころとからだの基本的なしくみを習得させる。【知】 (2) 発達課題や高齢者の健康について考えさせ、加齢に伴う心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解させる。【思】 (3) 保健・医療職など多職種と連携しながら、サービス利用者や家族の心身の状況や環境を考えた介護福祉サービスを提供できる能力と態度を育成する。【態】												
目標達成に向けての取り組み		・「介護のため」という視点のもと理論と実践の融合を目指す。 ・人間の成長と発達の過程における身体的・心理的・社会的变化及び老化が生活に及ぼす影響を理解させる。 ・ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な健康や障害についての基礎的な知識を習得させる。												
評価の観点及び趣旨	知識・技術 自立生活の支援に必要な人間の成長と発達について体系的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。			思考・判断・表現 自立生活の支援に必要な人間の成長と発達に関する課題を見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。			主体的に学習に取り組む態度 健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、人間の成長と発達に基づいた自立生活の支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。							

※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技術は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学期	月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点			評価方法・項目等	評価の規準等		
						知	思	態				
学 期	4	カリエンテーション 第1章 人間の成長と発達の基礎的理解	こころとからだの理解で学ぶ事柄 授業の進め方	人間の成長と発達の定義について理解させる。 発達は環境との相互作用によって変化していくことを理解させる。	2	●			学習プリント【知】 授業観察【態】 確認テスト・プリント【思】	・発達について理解し、発達の順序性について等の正しい知識を身についている。【知】 ・発達について主体的に考察している。【態】 ・自分の成長と発達と関連させ、発達に影響を与える要因について社会の諸問題と関連させ創造的に解決しようとしている。【思】		
	5				3		●					
	6		中間考查 第2章 人間の発達段階と発達課題	I 発達理論 1 子どもの発見 2 さまざまな発達理論  II 発達段階と発達課題	ライフサイクルの各期における、発達段階について、発達段階を唱えた心理学者の理論について基礎的な内容を理解させる。  発達段階における、身体的・心理的・社会的特徴と発達課題について理解させる。	4	●		学習プリント【知】 授業観察・プリント確認【態】			
							●					
			期末考查				1					
			夏期休業									
学 期	9	第2章 人間の発達段階と発達課題	III 身体的機能の成長と発達 IV 心理的機能の発達	発達段階における身体的・心理的機能の変化を理解させる。	1	●			確認テスト【知】	・発達段階におけるさまざまな機能の変化について理解している。【知】		
	10				2							
		中間考查				1						

学期	月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点		評価方法・項目等	評価の規準等
						知	思		
2 学 期	11		V社会的機能の発達 社会性の発達・愛着・道徳・向社会的行動	発達段階における社会的機能の変化を理解させ、愛着行動や道徳・向社会的行動などについて考察させる。	4 3		●	授業観察・プリント【態】	・発達段階におけるさまざまな機能の変化について理解し、行動について主体的に考察している。【態】
	12		期末考査		1				
3 学 期	1 2 3	I 老年期の定義 II 老化とは III 老年期の発達課題 IV 老年期を巡る今日的課題		老年期の定義を理解させ、我が国が社会が老年期をどのようにとらえてきたか理解させる。 高齢者の医療・福祉にかかる法律や制度を知り、今日の高齢者をめぐる問題を理解し、どのように解決すべきか、これから老年期はどうあるべきかを考える。	4 4 3	●	●	プリント確認【知】 授業観察【態】 プリント・確認テスト【思】	・老年期の定義について理解している。【知】 ・社会における老年期のとらえ方について理解し、そのとらえ方が社会に与える影響を考察し自分の言葉で表現している。【態】 ・高齢者施策の推移についてまとめてることで、諸課題を発見し、解決しようとしている。【思】
		学年末考査			1				
合計					35				

◇ 「こころとからだの理解」の総合評価における各観点の割合

知識・技術 50 % 思考・判断・表現 30 %

主体的に学習に取り組む態度 20 %

◇ 「こころとからだの理解」の総合評価における各評価方法・項目の割合

① 定期考査 30 %程度 ② レポート・ノート 30 %程度 ③ 実技・技術 20 %程度 ④ 授業態度 20 %程度

教科	福祉	科目	こころとからだの理解	単位数	1	学年	2	指導者	岸本 仁美
教科書	こころとからだの理解 (実教出版)	副教材	最新介護福祉士養成講座 1 3 認知症の理解 (中央法規出版) 認知症の事典 (成美堂出版)						
科目的目標	(1) サービス利用者の状況に合った自立生活の支援を行ううえで必要なこころとからだの基本的なしくみを習得させる。【知】 (2) 認知症課題や高齢者の健康について考えさせ、加齢に伴う心身の機能低下や認知症が生活に及ぼす影響について理解させる。【思】 (3) 保健・医療職など多職種と連携しながら、サービス利用者や家族の心身の状況や環境を考えた介護福祉サービスを提供できる能力と態度を育成する。【態】								
目標達成に向けての取り組み	(1) 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得する。 (2) 認知症の人を中心据え、本人や家族、地域の認知症ケアの課題解決能力を育成する。 (3) 地域の中で中心となって認知症の人々を支える能力と意識・態度を身に付けていく。								
評価の観点及び趣旨	知識・技術 認知症に関する基礎的・基本的認知症な知識を身につけ、介護における認知症の理解の学習の目的や役割を理解している。介護実習において認知症の利用者への対応するための技能が身についている。	思考・判断・表現 認知症介護における基礎的・基本的な知識・科学的根拠をもとに利用者に必要とされる介護内容を考え、課題を把握し明確に表現する能力を身に付けている。	体的に学習に取り組む態度 加齢により発症することの多い認知症ケアに対して介護活動を行う上で積極的に理解しよう関わろうとする態度を身に付けている。						

※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技術は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学 期	月	単 元	学習内容・活動等	ね ら い	配当時間	評価の観点	評価方法・項目等	評価の規準等
						知	思	態
1 学 期	4	介護を必要とする人の理解と介護(1)  中間 考査 (内容把握)	○認知症を取り巻く状況 ・認知症ケアの歴史・現状と今後	・認知症高齢者の現状と介護専門職に求められる課題を理解させる。 ・認知症ケアの歴史や理念、認知症の罹患者数の推移と認知症高齢者の現状などを具体的に取り上げ、認知症を取り巻く状況について理解させる。	4		授業観察【態】 確認テスト【知】 ワークシート【思】	・介護福祉士法における心身の状態に応じた介護であることを理解する。【態】 ・認知症の現状について理解する。【知】 ・認知症の利用者のチームケアの中での介護職員としての役割を理解する。【思】
6	6	介護を必要とする人の理解と介護(2) 認知症の理解  ○医学的側面から見た認知症の基礎 ・認知症とは ・認知症に見られる特徴的な症状 原因疾患 アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、レビー小体型認知症、クロイツフェルトヤコブ病、慢性硬膜下血腫、正常圧水頭症、アルコール性認知症症状 中核症状 心理行動症状 (B P S D)	・認知症ケアの理念 ・認知症に関する行政の方針と施策  ・認知症高齢者的生活困難に対応する介護や生活支援の方法を考えさせる。	4		授業観察【態】 ワークシート【思】	・認知症高齢者の症状の特徴とその生活困難を理解している。【態】 ・認知症の利用者とその家族への介護、生活支援の方法を理解している。【思】	
7	期末 考査 (内容把握)				1		考査	

学 期	月	单 元	学習内容・活動等	ね ら い	配 当 時 間	評価の観点 知 思 態	評価方法 ・項目等	評価の規準等
1 学 期	7		基礎実習II（前期7月9日～7月24日） ・認知症高齢者を支える介護のあり方 (在宅/施設 介護福祉サービス)	・校内で学習した知識と実際の介護現場における認知症高齢者の生活とを結びつけさせる。	1	●	介護実習記録 【思】	・毎日の介護実習記録やアセスメント表にその事実を記録することができる。【思】
	8	夏季休業						
2 学 期	9	認知症の人の生活の場と介護	基礎実習II（後期9月3日～9月25日） ○認知症の人の暮らしの支え ・施設の種類の応じた介護 介護老人福祉施設 グループホーム 等 ・在宅での介護 家族への支援	・校内で学習した知識と実際の介護現場における認知症高齢者の生活とを結びつけさせる。 ・人間関係や居住環境などの環境変化が与える影響について理解させる。 ・認知症の利用者について適切なアセスメントを行い、周辺症状や生活障害を緩和していく支援が必要であることについて理解させる。	4	● ● ●	介護実習記録 【思】 授業観察【知】 ワークシート 【態】	・実際の利用者の状態を観察できる。【思】 ・リレーションシップとその対応について理解できている。【知】 ・認知症の人の生活の状態と原因疾患を関連づけて理解できる。【態】
	10		中間考查（介護実習でのアセスメントをふまえた理解）		1		考査	
	11	認知症の診断と治療	・診断の過程 ・危険因子 ・認知症予防の対策	・認知症の検査（長谷川式認知症スケール、ミニメンタルスティート検査等）について理解させる。 ・一次予防、二次予防、三次予防の重要性や早期発見、早期治療が有効であることを理解させる。	4	● ● ●	授業観察【知】 ワークシート 【思】【態】	・質問式、行動観察式等の各種検査について理解している。【知】 ・認知症高齢者や家族の心理についても考えている。【態】 ・生活習慣病と認知症について新聞や文献から考えることができる。【思】
	12		・認知症の重症度評価 ・認知症の評定尺度	・認知症と間違われやすい症状や若年性認知症についても理解させる。	4	● ●	授業観察【知】 ワークシート 【思】	・各種評価尺度を理解する。【知】 ・認知症の重症度と介護のあり方を考えることができる。【思】
		期末考查（内容把握）			1		考査	
3 学 期	1	認知症の予防	・現在の認知症対策 ・認知症の治療方法	・主な治療の実際及び危険因子や予防について理解させる。	2	● ●	授業観察【思】 ワークシート 【態】	・治療薬、治療法と介護との関連を理解している。【思】 ・認知症サポーター養成事業について主体的に理解している。【態】
	2	認知症ケアの実際	・パーソン・センタード・ケア ・認知症の人への様々なアプローチ	・パーソン・センタード・ケアの理念を理解させる。 ・実際的なアプローチとしてユマニチュード、バリデーション、DCM 等の方法について具体的に学習する。	3	● ● ●	授業観察 【知】【態】 ワークシート 【思】	・認知機能障害による生活の影響を理解している。【知】 ・認知症の人の生活障害へのケアを理解している。【態】 ・認知症の人の人間関係作りのアプローチを実践できる。【思】
	3							
		学年末考查（内容把握、介護実習での体験整理）			1		考査	
		合 計			3 5			

◇「こころとからだの理解」の総合評価における各観点の割合

知識・技術 50 % 思考・判断・表現 30 %

主体的に学習に取り組む態度 20 %

◇「こころとからだの理解」の総合評価における各評価方法・項目の割合

① 定期考查 70 %程度 ② 授業への取組態 10 %程度

③ 提出物 10 %程度 ④ 小テスト・課題 10 %程度

教科	福祉	科目	こころとからだの理解	単位数	1	学年	2	指導者	佐々 由美子
教科書	こころとからだの理解(実教出版)					副教材	最新介護福祉士養成講座 1 4 障害の理解(中央法規)		
科目的目標		(1) サービス利用者の状況に合った自立生活の支援を行ううえで必要なこころとからだの基本的なしくみを習得させる。(知識・理解) (2) 発達課題や高齢者の健康について考えさせ、加齢に伴う心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解させる。(思考・判断・表現) (3) 保健・医療職など多職種と連携しながら、サービス利用者や家族の心身の状況や環境を考えた介護福祉サービスを提供できる能力と態度を育成する。(態度)							
目標達成に向けての取り組み		(1) 教科書での学習を基本として、「こころとからだの理解」の内容にもとづいた自立生活の支援に必要な、深い理解を伴った知識・技能を習得する。 (2) 「考えてみよう」や編末問題の「まとめてみよう」などを実践する活動を通して主体的に判断し、よりよく問題を解決する。 (3) 編末問題などで学習の理解到達度を確認し、ワークシートなどを活用しながら学習したことを自分の言葉で表現する。							
評価の観点及び趣旨	知識・技術			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度		
	自立生活の支援に必要なこころとからだについて体系的・系統的に理解すると共に、関連する技術を身につけていく。			自立生活の支援に必要なこころとからだに関する課題を見出し、介護従事者としての倫理観を踏まえて、科学的な根拠にもとづいて創造的に解決する力を身につけていく。			科学的根拠にもとづいた生活支援の実践をめざして自ら学び、こころとからだにもとづいた自立生活の支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。		

※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技能は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学 期	月	単 元	学習内容・活動等	ね ら い	配当 時間	評価の観点		評価方法 ・項目等	評価の規準等
						知	思 想		
学 期	4	障害の概念と障 害者福祉の基 本理念	I 障害の概念	障害のある人の生活を支援する観点か ら、障害の概念や、障害者福祉の基本 理念を理解する。	3	●	●	授業観察(態度)	・意欲的に学習に臨むことができ ている。(態度) ・障害の概念や障害者福祉の基 本理念について体系的・系統 的理解ができる。(知識)
	5		II 障害者福祉の基本理念			●		プリント確認 (知識)	
			III 障害者福祉に関する制度	障害者福祉の歴史的経緯や関連法規な ど障害者福祉を取り巻く社会的状況の 変化について理解する。障害者総合支 援法にもとづくサービスを学ぶ。障害 者にかかる法律の概要について学ぶ。	4		●	授業観察 プリント確認 (態度)	・障害の特性に応じた制度の基 礎的な知識を体系的・系統的 に理解することができてい る。(態度)
		中間考査			1				
6		障害の概念と障 害者福祉の基 本理念	IV 障害者福祉制度と介護保険制度	障害者福祉制度と介護保険制度の違い を学び、併用のしくみについて理解し 障害のある人の課題を考慮した支援を 表現する。			●	授業観察 ファイル確認 (態度)	・障害者福祉制度と介護保険制 度の違いや併用のしくみにつ いて理解し、障害のある人の 課題を考慮した支援を表現し ようとしている。(態度)
7	介護実習	基礎実習前半（7月9日～7月24日）		実習で出会った利用者に対して専門的 な視点でアセスメントできるよう既習 事項を統合させる。	4		●	介護実習状況と アセスメントシ ート	・専門的な視点で既習事項を統 合させてアセスメントでき ている。
	期末考査	内容理解			1				
8	夏季休業課題	人体の構造と機能、系統別疾患等の既習知識に關するまとめと問題				●		国家試験問題 (過去問)	・2学期の課題テストによつて 確認する。(知識)

学 期	月	单 元	学習内容・活動等	ね ら い	配当 時間	評価の観点 知■思■態	評価方法 ・項目等	評価の規準等
2 学 期	9	障害別の基礎的 理解と特性に応 じた支援	基礎実習後半（9月3日～9月23日）	医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解する。障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援について考える。 人間の欲求や適応規制について知り、障害受容に影響を与える要因を理解し、障害受容に応じた支援のポイントを理解する。肢体不自由と視覚障害の支援のポイントを理解する。	7	●	授業観察 ワークシート (知識) ワークシート	・医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解することができている。 (知識) ・障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援について考えようとしている。
	10		Ⅰ 障害のある人の心理 Ⅱ 肢体不自由 Ⅲ 視覚障害					
	11		中間考査					
	12		IV聴覚・言語障害	医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解する。障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援について考える。 聴覚・言語障害の種類、原因を理解する。	6	●	プリント確認 (知識) ファイル確認 行動観察(態度)	・障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解することができている。 (知識) ・QOLを高める支援につながる支援を考えようとしている。 (態度)
	1		V重複障害					
	2		期末考査 (障害の理解 全般の知識確認)	障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解する内容とする。 重複障害の種類、原因を理解する。	3	●	確認テスト (知識)	・障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解することができている。 (知識)
	3		VI内部障害					
	3		VII重症心身障害					
	合 計		学年末考査 (障害の理解 全般の知識確認)		1	●		・問題の70%を理解できている。
◇ 「こころとからだの理解」の総合評価における各観点の割合								
知識・技術 50 % 思考・判断・表現 30 %				主体的に学習に取り組む態度 20 %				
◇ 「こころとからだの理解」の総合評価における各評価方法・項目の割合								
①定期考査 50 %程度		②レポート・ノート 25 %程度		③実技・技術 10 %程度		④授業態度 15 %程度		

◇ 「こころとからだの理解」の総合評価における各観点の割合

知識・技術 50 % 思考・判断・表現 30 %

主体的に学習に取り組む態度 20 %

◇ 「こころとからだの理解」の総合評価における各評価方法・項目の割合

①定期考査 50 %程度 ②レポート・ノート 25 %程度 ③実技・技術 10 %程度 ④授業態度 15 %程度

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2 単位	学年	2	指導者	佐々 由美子 岸本 仁美									
教科書	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)	副教材	家庭総合学習ノート Super Live View (東京書籍)															
科目的目標		(1)生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、家庭生活に関する知識・技術を身につける。(知) (2)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向け男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。(思) (3)よりよい社会の構築に向け、地域社会に参画するとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。(態)																
目標達成に向けての取り組み		(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な行為の科学的根拠を理解し、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。 (2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想、実践した上で評価・改善し、考察したことを科学的根拠に基づき論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向け、地域社会に参画するとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。																
評価の観点及び趣旨	知識・技能	思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度												
	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けています。	生涯を見通して家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想した上で実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けています。				様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向け、課題の解決に主体的に取り組み、振り返って改善するなど地域社会に参画する態度を身につけ、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。												

\*上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技能は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学期	月	単元	学習内容・活動等	ね ら い	配当時間	評価の観点 知・思・態	評価方法 ・項目等	評価の規準等
1 学 期	4	食生活をつくる	1 食生活について考える ・食生活の課題	・よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。	8	●	授業観察(思) 確認テスト(知)	・食生活の課題が挙げられる。(知) ・食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。(思)
	5		2 食事と栄養・食品 ・栄養と栄養素	・自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるため、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について科学的に理解を深める。	8	●	ワークシート 確認テスト(知)	・栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深め、それらに係る技能を身につけている。(知)
	6	中間考查(食生活)	3 調理の基礎 ・食物調理技術検定(4級) ・調理実習① ・調理実習②	・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉える。	9	●	実習観察(態) 実技テスト(技)	・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉え実践しようとしている。(態) ・食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識や技能を身につけている。(技)
	7		4 食品の選択と安全 ・食品の選択と保存と加工 ・食生活の衛生と安全	・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける。	1		考查	
2 学 期	8	夏季休業	・ホームプロジェクト				考查	
	9	食生活をつくる	5 生涯の健康を見通した食事計画 ・栄養バランスのよい食事 ・食事計画	・自分と家族の食生活を計画・管理できるようになるために、ライフステージごとの食生活の特徴や課題を理解し「健康によい栄養バランスのよい食事」を作る。	7	●	ワークシート(思)	・各ライフステージの食生活の特徴や課題を理解し、「健康によい栄養バランスのとれた食事」という課題を解決する力を身につけている。
			・課題抽出・情報収集・目標設定・計画立案 ・実践 ・評価 実践内容について発表	・実践課題を発表することを通して実践の成果や課題を共有する。	3	●	パワーポイントを使って各自の成果を発表(表)	・家庭、地域の生活の充実向上を図ろうと主体的かつ協働的に課題を解決する力を身につけている。(思)

	10	中間考査（食生活）					
2 学 期	10	食生活をつくる 6 食生活の文化と知恵 7 これからの食生活	・郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する。 ・世界の食文化に関心を持ち、私たちの食生活への影響について理解する。	10	● ●	ワークシート（知） 確認テスト（態）	・日本の食文化の特徴を理解している。(知) ・世界の食文化に关心を持ち、私たちの食生活への影響について理解しようとしている。(態)
	11	住生活を作る 1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活の計画 ・平面図を理解する ・住居の計画 ・誰もが住みやすい住環境 3 住生活の文化と知恵 4 これからの住生活 ・環境に配慮した持続可能な住居	・生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支え生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。 ・自らの住生活に生かすことができるよう、防災・日照・換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康で安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。 ・日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違いや時代の変化によって、大きく異なる世界や日本のかまざまな住文化について理解する。 ・持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手になるために、環境に配慮した住生活について理解する。	10	● ● ● ●	ワークシート（思） ワークシート（知） 確認テスト（知） 授業観察（態）	・私たちの毎日の生活を支え生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を考察することができる。(思) ・住生活の環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解している。(知) ・世界や日本のさまざまな住文化について理解しようとしている。(知) ・持続可能な住居や、自助・互助・共助・公助に基づく地域コミュニティづくり、まちづくりの担い手に参画しようとしている。(態)
		期末考査（住生活）		1		考査	
3 学 期	1	子どもと共に育つ 1 生命を育む ・子どもの誕生 2 子どもの育つ力を知る ・子どもの心身の発達 ・子どもの発達と保育 3 子どもと関わる ・保育実習	・命に対する責任や、社会の一員として次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解する。 ・子どもの発達に応じて適切に関わられるようになるために、子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達について理解する。 ・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について理解する。 ・子どもや子育てに対する理解を深めるため、子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。 (保育実習実施・レク用品作成)	5	● ● ● ●	ワークシート（知） 確認テスト（知） ワークシート（思） 保育実習観察（態）	・命に対する責任や、社会の一員として次世代を育む責任を持つために、性と生殖に関する健康について理解する。(知) ・子どもと適切に関わるよう、子どもが持っている能力や心身の発達段階やその課題に関する知識を身につけている。(知) ・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるために、子どもの生活習慣や衣食住について考察する。 (思) ・子どもや子育てに対する理解を深めるために、子どもとの触れ合いや、親や保育者と子どもの関わり方の観察など、さまざまな体験をする。(態) ・社会全体で子育てを支援していくために、現代の子育て環境の変化や課題について理解している。(知) ・子どもが健やかに育つ社会をどのように実現すればよいか考えて実践しようとする。(態)
	2	4 これからの保育環境 ・子どもの権利と福祉	・社会全体での子育て支援のために、現代の子育て環境の変化や課題について理解する。 ・子どもが健やかに育つ社会をどのように実現すればよいか考えて実践しようとする。	5	●	ワークシート（知） 確認テスト（態）	
	3			1		考査	
		学年末考査（保育）		70			
		合 計					

◇ 「家庭総合」の総合評価における各観点の割合

知識・技能 50 % 思考・判断・表現 30 %

◇ 「家庭総合」の総合評価における各評価方法・項目の割合

① 定期考査 40 %程度

② レポート・ノート 10 %程度

主体的に学習に取り組む態度 20 %

③ 実技・技術 40 %程度

④ 授業態度 10 %程度

## 令和7年度 年間学習指導計画表【3年生】

教科	福祉	科目	介護福祉基礎	単位数	1 単位	学年	3	指導者	原 佐緒理
教科書	介護福祉基礎（実教出版）					副教材	介護福祉士養成講座3介護の基本I（中央法規出版） 介護福祉士養成講座4介護の基本II（中央法規出版） 介護福祉用語辞典		
科目の目標		1 介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護を行う上での基本的な考え方を習得させる。【知】 2 介護の現代的意義や役割について考えさせ、介護を取り巻く状況や介護福祉サービスの確立や様々な社会的対応について理解させる。【思】 3 介護を必要とする人に対して自立支援の観点に基づき、自己実現が達成されるよう適切な介護福祉サービスを提供できる能力と態度を育成する。【態】							
目標達成に向けての取り組み		・介護を取り巻く社会状況を理解させ、介護従事者として国民の求める介護従事者としての職業観を育成する。 ・サービス利用者のプライバシーや人権尊重の意義を人間としての尊厳の保持するための介護の必要性に関連づけて理解させる。 ・高齢者だけでなく障害児・障害者について介護保険法や障害者総合支援法の内容について具体的に理解させる。 ・介護者の安全や倫理について介護実習の取り組みと関連づけて体験的に学習させる。							
評価の観点及び趣旨	知識・技術 介護に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、介護の意義や役割を理解している。高齢者や障害者に対する基礎的・基本的な介護技術を身に付けている。	思考・判断・表現 介護に関する諸問題の解決を目指して思考を深めたり、判断したり、表現したりしている。また、介護に関する諸問題を発見し、介護者としての倫理観を踏まえて、合理的かつ創造的に解決する力を身につけている。					主体的態度 介護に関する諸問題について関心をもち、より良い介護を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。		

※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技術は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学期	月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点			評価方法・項目等	評価の規準等
						知	思	主		
1学期	4	介護を必要とする人の理解と支援 介護福祉サービスの概要 障害福祉サービスの概要	高齢者・障害者の生活と支援	介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解させるため、介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、介護サービスや地域連携、フォーマル・インフォーマルな支援を理解させる。 介護保険制度の目的と内容について理解した上で、法改正や制度の見直しとその背景について理解させ、各サービスについて具体的にその内容と提供の実際を理解させる。	2	●			学習プリント・確認テスト【知】 授業観察・学習プリント【思】 授業観察・学習プリント【態】	・日本の高齢社会について理解し、正しい知識を身に付けている。【知】 ・介護保険制度についての目的と内容、サービス提供の実際を理解している。【思】 ・今後の課題について主体的に考察しようとしている。【態】
	5				3		●	●		
		中間考查（内容把握）			1				考查	
	6	応用実習 6月3日～7月8日								
	7			障害者総合支援法について、その変遷と目的、内容、サービス提供の実際について理解させ、障害児(者)支援の目的と内容、サービス提供の実際について理解させる。 障害者福祉の変遷やその背景、諸外国の状況も踏まえ、日本の障害者を取り巻く現状や今後の課題と共生社会について理解させる。	2	●	●	●	学習プリント・確認テスト【知】 授業観察・事例研究資料【思】 事例研究【態】	・障害者福祉の理念と関連法を理解する。【知】 ・障害者総合支援法についての目的と内容、サービス提供の実際が理解できている。【思】 ・障害者福祉の近年の動向や課題、諸外国の現状、共生社会のあり方を考察できる。【態】

学期	月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点			評価方法・項目等	評価の規準等
						知	思	主		
	8	夏季休業								
2	9	尊厳を支える介護	介護福祉の基本となる理念と尊厳・基本的人権について ・社会保障 生活保護 医療保険制度 年金制度 雇用保険 労働者災害補償保険	社会保障制度（社会保険と社会扶助）について、その概要と各制度の内容とそれとの制度との繋がりについて幅広い視点から考察し、介護福祉の基本となる理念を理解し、介護福祉職としての関わりについて理解させる。	10	●			学習プリント・確認テスト【知】 授業観察【態】 学習プリント・事例発表【思】	・社会保障の目的や意義、機能や範囲などの基本的な知識を身に付け、各制度についての目的や内容、サービス提供の実際にについて理解している。【知】 ・社会保障の役割について主体的に考察できる。【態】 ・日本の社会保障制度に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。【思】
学 期	10	中間考查（内容把握）			1				考查	
	11	介護福祉の担い手	介護従事者を取り巻く状況 ・介護福祉士の養成 ・介護従事者のキャリアアップと社会的地位向上 介護従事者の役割 ・施設介護従事者の役割 ・在宅介護従事者の役割	介護福祉士養成課程や、求められる介護福祉士像等、介護従事者に必要な倫理と態度について理解させると共に、介護を取り巻く状況について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことにより、キャリアアップと社会的地位向上につながることを理解させる。 施設と在宅それぞれの場での介護従事者としての役割と機能、さらに介護予防や終末期(看取り)、災害時の各場面における支援について介護福祉士の役割と機能について理解させ、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養わせる。	5	●			学習プリント・確認テスト【知】 授業観察【態】 学習プリント・授業発表【思】	・求められる介護福祉士像、それにともなう倫理と態度について理解している。【知】 ・主体的かつ協働的に学ぶ姿勢を身に付け、キャリアアップや社会的地位向上を目指そうとしている。【態】 ・施設や在宅等様々な場面での介護従事者としての役割と機能について理解し、介護実践に必要な観察力や判断力、思考力を身につけようとしている。【思】
	12	期末考查			1				考查	
3	1	介護従事者の安全	介護における安全確保と事故対策 ・感染対策 ・介護従事者の健康管理	介護におけるリスクマネジメントについて具体的な事例を取り上げ、対応の基本について考察させる。介護従事者における健康管理の重要性について理解させるとともに、適切な福祉用具や介護ロボットの活用について自ら学び活用する力を養わせる。	4	●			確認テスト【知】 事例研究からの考察【態】 実習体験の振り返り【思】	・介護における安全確保と危機管理におけるリスクマネジメントについて主体的に学ぶ姿勢を身に付けている。【知】 ・心身の健康管理が及ぼす影響について理解し、対策について考察し、主体的に実践しようとしている。【態】 ・福祉用具や介護ロボットについてその知識と活用場面について合理的かつ創造的に解決しようとしている。【思】
		学年末考查（総合問題）			1				考查	
		合計			35					

◇ 「介護福祉基礎」の総合評価における各観点の割合

①知識・技術 30% ②思考・判断・表現 30% ③主体的態度 40%

◇ 「介護福祉基礎」の総合評価における各評価方法・項目の割合

① 定期考查 50%程度 ② 授業への取組態度 20%程度 ③ 提出物 20%程度 ④ 小テスト・課題 10%程度

教科 科目	福祉	生活支援技術	単位数	2 単位	学年	3	指導者	榎友愛梨 佐々由美子					
教科書	生活支援技術 (実教出版)				副教材	最新介護福祉士養成講座 6	生活支援技術 I	(中央法規)					
							最新介護福祉士養成講座 7	生活支援技術 II	(中央法規)				
							最新介護福祉士養成講座 8	生活支援技術 III	(中央法規)				
科目的目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解させ、基礎的な介護の知識と技術を習得させる。【知】</li> <li>実際の支援内容を合理的に計画し、適切に実践するとともに、その成果を的確に表現する。【思】</li> <li>様々な介護場面において適切かつ安全に支援できる能力と態度を育てる。【態】</li> </ul>											
目標達成に向けての取り組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の尊厳の保持や自立支援の考え方、他職種連携などの知識を活用できるようにし、介護観や倫理観を育成する。</li> <li>「こころとからだのしくみ」の授業と関連付け、講義・演習・実習を一連の流れとして指導し、サービス利用者の理解を深めるとともに、介護実践の根拠となる介護に必要な人体の構造や機能を理解させる。</li> <li>利用者の生活や個別性、尊厳を踏まえた生活の自立について理解し、それに必要な実際的な支援の方法が提供できるよう考える能力を養う。</li> </ul>											
評価の観点及び趣旨	<p>知識・技術</p> <p>生活支援技術の意義や役割を理解すると共に、介護分野における基礎的・基本的な技術を身につけている。また、実際の支援内容を合理的に計画し、適切に実践することでその成果を的確に表現する。</p>			<p>思考・判断・表現</p> <p>介護に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用し、適切に判断し創意工夫する能力を身につけている。</p>			<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>生活支援における課題について関心を持ち、利用者の生活の自立を目指して主体的に学習に取り組むとともに、課題解決のための実践的な態度を身につけている。</p>						

※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技術は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学 期	月	単 元	学習内容・活動等	ね ら い	配当 時間	評価の観点 知 思 態	評価方法 ・項目等	評価の規準等	
1 学 期	4	第2編 自立に向けた生 活支援	実習時的心構え、服装、準備、レポート作成 自立に向けた居住環境整備 居住環境整備の基本理念 快適な居住環境 高齢者および障がい者の住まい	生活支援技術の授業について、知識や技術の統合やエビデンスに基づいた支援の実践ができる。 住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解させる。	12	● ● ●	プリント確認 【思】  レポート確認 【態】 行動観察 自己評価【知】	・生活支援技術について3学年で学習すべき内容がイメージできている。 ・求められる技術が理解できている。 ・利用者の状況に応じた支援方法が選択できる。【態】 ・必要な技術が身に付いている。【知】	
	5	障害に応じた生 活支援技術	障害や疾患の理解 利用者の状況に応じた支援	利用者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得させる。また、実践の根柢について説明できる能力を身につけさせる。	6	● ●	レポート確認 プリント確認 【思】  行動観察 自己評価【知】	・利用者に多く見られる障害や疾患に关心を持っている。 ・障害や疾患の理解ができている。 ・障害や疾患に応じた支援が理解できている。 ・個々に応じた介護技術が習得できている。【知】	
	6	中間考査 自立に向けた生 活支援技術	自立支援に向けた介護技術の理解	生活支援技術で学んだ知識や技術を介護実習の中で生かし、また応用をすることができる。 介護実習で実践した内容を記録にまとめることができる。	1				
		応用実習（6月3日～7月8日 23日間）				7	●	レポート確認 自己評価【知】	・実習施設の利用者に応じた生活支援技術が展開できる。 ・実践した内容を考察し的確に記録できる。【知】

学 期	月	单 元	学習内容・活動等	ね ら い	配当 時間	評価の観点 知・思・態	評価方法 ・項目等	評価の規準等
学 期	8	夏季休業						
	9	障害に応じた生活支援技術	運動機能障害に応じた介護 運動機能障害とADL 生活場面と支援のポイント 介護技術の展開 精神障害に応じた介護 精神障害者と生活の理解 生活支援と環境整備 介護技術の展開 重複障害（盲ろう）に応じた介護 盲ろう者と生活の理解 生活支援と環境整備 移動における介護技術の展開	運動機能障害に応じた介護について、知識や技術を理解すると共に、班別実習により、事例を用いて応用的な実習を行い、表現力を身に付ける。 精神障害者的生活を理解し、障害に応じた生活支援と環境整備について理解する。	13	● ● ●	行動観察【態】 プリント確認【知】 レポート確認自己評価【思】	・環境整備から始め、実際の場面を想定して実習に取り組める。【態】 ・各障害についての特性が理解できる。【知】 ・各障害の特性に応じて必要な支援を理解し、介助方法を選択できる。 ・各状況に応じた介護技術が身についている。 ・考察し、記録をとることができる。【思】
	10			重複障害者の生活を理解し、生活支援と環境整備について理解する。				
	中間考査							
	11	休息・睡眠の介護 生活援助	睡眠・休養の意義と目的 睡眠/休養の支援技術 自立に向けた家事の介護	健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援について理解させる。 安全で目的に合った家事行動の支援について理解し、実践できる。	15	● ●	行動観察 レポート確認【知】	・利用者の生活活動の種類、生活空間と休息や睡眠の重要性について理解できる。 ・調理、洗濯、掃除、裁縫、家庭経営・家計の管理など家事の自立支援と留意点について理解できる。【知】
	12	災害時の支援	福祉用具の意義と活用 災害時における介護従事者の役割 災害時における生活支援	介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、利用者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を習得させる。 災害時における生活支援について考え、介護従事者の役割について理解させる。		●	行動観察 自己評価【態】	・福祉用具を活用する意義や目的を理解し、適切な福祉用具を選択・活用できる。 ・災害時の生活支援について主体的に考え、介護従事者の役割について主体的に考察している。【態】
	期末考査							
	3	人生の最終段階における介護学	人生の最終段階における介護 終末期の支援の意義と目的 終末期の支援における介護従事者の役割 死を迎える人への支援と留意点 死後のケア グリーフケア	人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解させる。	13	● ● ●	確認テスト 【知】 レポート確認 【態】 行動観察 【思】	・人生の最終段階におけるケアについて理解している。【知】 ・人生の最終段階にある人の経過に沿った支援について主体的に考察している。【態】 ・死後のケアを支援する介護従事者の役割について、意欲的に取り組んでいる。 ・様々な場面におけるチームケアの重要性について考察している。【思】
	学年末考査							
	合 計							

◇ 「生活支援技術」の総合評価における各観点の割合  
知識・技術 40 % 思考・判断・表現

30 %

主体的に学習に取り組む態度

30 %

◇ 「生活支援技術」の総合評価における各観点の割合  
① 定期考査 40 %程度 ② レポート・ノート 20 %程度

③ 実技・技術 30 %程度

④ 授業態度 10 %程度

教科	福祉	科目	生活支援技術（医療的ケア）	単位数	2 単位	学年	3	指導者	亀島木綿子 桧友愛梨 佐々由美子	
教科書	最新介護福祉士養成講座 15 医療的ケア									
科目的目標		自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解させ、基礎的な介護の知識と技術を習得させるとともに、様々な介護場面において適切かつ安全に支援できる能力と態度を育てる。 (1) 医療的ケアを必要とする利用者について理解し、医療的ケアが提供できるように関連する技術を身につける。（知識・技術） (2) 医療的ケアに関する課題を発見し、医療を提供する職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的根拠に基づいて解決する力を養う。（思考・判断・表現） (3) 医療を提供するという自覚を持ち、利用者の立場に立って安全安楽、かつ正確な技術を提供できるよう主体的に取り組む。（主体的に学習に取り組む態度）								
目標達成に向けての取り組み		・医療職との連携のもと医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。 ・医療的ケアを必要とする利用者の尊厳の保持や自立支援の考え方、他職種連携などの知識を活用できるようにし、介護観や倫理観を育成する。								
評価の観点及び趣旨	知識・技術 医療的ケアにおける基礎的・基本的な知識を身につけ、医療的ケアの意義や役割を理解している。 医療的ケアにおける基礎的・基本的な技術を身につけ、医療職の指示どおりに、ケアを適切に実践するとともに、報告・記録を的確に表現する			思考・判断・表現 安全・適切な医療的ケアの提供を目指し、医療職との共通理解が図れるよう思考を深め、万が一事故が発生したときには、医療職に的確に報告できるような基礎的・基本的な知識と技術を身につけている。			主体的に学習に取り組む態度 医療的ケアにおける正しい知識を持ち、利用者の生活の自立を目指して意欲的に学習に取り組むとともに、安全・安楽なケアの提供のための実践的な態度を身につけている。			

※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技術は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学期	月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点			評価方法・項目等	評価の規準等	
						知	思	態			
学 期	1 4	人間と社会 医療的ケア実施の基礎 なぜ医療的ケアを学ぶのか	医療的ケアの授業について 授業の進め方と授業内容・医療用器具の使い方 実習時の確認事項 介護職における医療的ケアの実施の経緯 基本的心構え I 個人の尊厳と自立 医療的ケアにおける「個人の尊厳と自立」	これまでの生活支援技術と医療的ケアの相違を明確に理解し、医療行為を担う責任感と倫理観を持つ。 実際に医療行為を実施するための心構えをしっかりととともに、最終学年として、利用者の個人の尊厳と自立に向け真摯に学ぶことができる。	6	●	●	●	ノート確認(知) 行動観察(思) 自己評価(態) DVD視聴	・医療的ケアについて学習すべき内容がイメージできる。(知) ・CWとして医療的ケアで求められていることについて理解できる(思) ・個人の尊厳と自立について自分の考えを持っている。(態)	
			II 医療の倫理 介護福祉士の倫理・医療的ケアにおける倫理 III 利用者の家族の気持ちの理解 I 保健医療に関する制度 II 医行為に関する法律 I 安全な実施 II 救急蘇生	保健医療に関する制度や法律を正しく理解する。 事故やトラブルにおける救急法を適切に実施できるよう既習事項を確認する。	10	●	●	●	ノート確認(知) 実技練習相互評価(思)(態)	・保健医療に関する制度や法律を正しく理解する。(知) ・救急法について既習事項を確認する。(思)(態)	
			中間考査				1				
	6	感染予防と清潔保持 健康状態の把握	I 感染予防 手洗い ○応用実習 (介護実習 6月3日～7月8日) ・課題解決に向けた介護過程の展開	感染に対するリスクを理解すると共に感染予防の具体的な方法を実践できる。	4	●	●	●	実技練習観察(態) ノート確認(知) 実技相互評価(思)	・感染予防の方法を理解できている。(態) ・感染予防を実践できる。(思)	
7	喀痰吸引・経管栄養の基礎的知識と実施手順 喀痰吸引	喀痰吸引 呼吸のしくみと働き いつもと違う呼吸 喀痰吸引とは	呼吸のしくみと働き、異常について観察出来るように理解する。				8	●	●	ノート確認(知) 発表(思)	・正常・異常の違いを理解している(知) ・正常・異常の違いが解るよう観察項目を説明できる(思)

学 期	月	单 元	学習内容・活動等	ね ら い	時 間	評価の観点			評価方法 ・項目等	評価の規準等
						知	思	態		
2 学 期	8	夏季休業	夏季休業中の課題						課題（知）	
	9		IV喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ V人工呼吸器と吸引 VI子供の吸引 VII喀痰吸引に伴うケア IX呼吸器系の感染予防 X安全確認 XI急変事故発生時の対応 XII報告・記録 教師による模範を見学の後、班別実習実施 口腔内吸引 鼻腔内吸引 気管カニューレ内吸引 演習 実技試験	喀痰吸引実施の手順と留意点及び人工呼吸器装着者について理解する。  人工呼吸器装着者の口腔内吸引、 人工呼吸器装着者の鼻腔内吸引、 人工呼吸器装着者の気管カニューレ内部の吸引についてはDVDなどの視聴覚教材を用いてイメージをつかめるようにする。	10	● ● ● ● ● ● ● ● ● ●			実技演習（知） ノート確認 確認テスト（知） 演習観察（態） 実技演習（思） 実技練習（思） 実技試験（知） 自己相互評価	・設備の使用方法、必要物品の名称を覚えている。（知） ・基本的な操作が習得できている。（知・技） ・班内で協力できている。（態） ・利用者にあった物品が準備できている。（思） ・利用者の安全、安楽やプライバシー配慮した行動がとれている。（思） ・口腔内吸引が実施できる。 ・鼻腔内吸引が実施できる。 ・気管カニューレ内吸引が実施できる。（技）
	10	経管栄養	消化器系のしくみとはたらき 嚥下のしくみ 消化器症状 経管栄養のしくみと種類	消化器系器官の役割と機能が理解できる。 嚥下のしくみや消化、吸収、よくある消化器症状について理解する。	10	●			確認テスト（知） 演習観察 発表	・消化器系器官の役割と機能が説明できる。（知） ・嚥下のしくみを説明できる。 ・消化、吸収について説明できる。 ・よくある消化器症状について説明できる。
	中間考査									1
	11		実施上の留意点 感染予防 経管栄養により生じる危険と注入後の安全確認 急変・事故発生時の対応と事前対策 器具・器材の取り扱い方 消毒方法 経管栄養の技術と留意点	急変・事故発生時の対応と事前対策や器具・器材の取り扱い方・消毒方法、経管栄養の技術と留意点についてその実践や応用ができるよう基本的な技術を理解する。	8 6	● ● ● ● ● ●			演習観察（態） ノート確認 実技演習（思） 実技試験（知）	・感染予防の具体的方法を実践できる。（態） ・器具、器材を適切に安全に取り扱うことができる。（思） ・実施の手順や留意点を説明できる。（知）
	12									
	期末考査									1
3 学 期	1		経管栄養に必要なケア 胃瘻 腸瘻 経鼻経管栄養	経管栄養の実施の手順と留意点について理解している。	4	● ● ● ●			確認テスト（知） 実技演習（思） 実技試験（態）	・体位、口腔、鼻腔のケアについて説明できる。（知） ・胃瘻による経管栄養法が実施できる。（思）（態） ・経鼻経管栄養による経管栄養法が実施できる。（態）
	学年末考査									1
合 計										70

◇「生活支援技術」の総合評価における各観点の割合

総合評価における各観点の割合 知識・技術 50 % 思考・判断・表現 30 % 主体的に学習に取り組む態度 20 %

各評価方法・項目の割合 ①定期考査 30 %程度 ②レポート・ノート 20 %程度 ③実技・技術 30 %程度 ④授業態度 20 %程度

教科	福祉	科目	介護過程	単位数	2 単位	学年	3	指導者	榎友 愛梨 新田 剛司	
教科書	介護過程（実教出版）									
科目的目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護過程の意義と目的やそのプロセスを正しく理解させるとともに、自立生活を支援するために必要なこころとからだの基礎的な知識を習得させ、介護過程の展開に適切に活用できる能力を育てる。【知】</li> <li>・高齢者と健康について、生活習慣が関連する疾病を含め、高齢者に多い疾病や症状の現れ方の特徴、身体の不調の訴えなどを取り上げて理解させるとともに日常生活上での留意点についても考えさせる。【思】</li> <li>・自立生活を支援するために必要なこころとからだの基礎的な知識を習得させ、介護過程の展開を主体的且つ適切に活用できる能力を育てる。【態】</li> </ul>								
目標達成に向けての取り組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス利用者が人間としての尊厳を保持しながら自立した豊かな生活が送れるようにするための、介護過程の意義や役割について理解できる。</li> <li>・他科目で学んだ知識や技術を生かして、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる実践的な能力や態度を身につけることができる。</li> </ul>								
評価の観点及び趣旨	<b>知識・技術</b> 人間としての尊厳の保持と自立生活支援の観点からの介護過程の意義と役割及び展開を、高齢者に多い疾患をはじめとし、他の科目で学んだ基礎的・基本的な知識や知識を統合しながら、理解することができる。			<b>思考・判断・表現</b> サービス利用者の自立や豊かな生活につながる幅広い介護計画を立案し、検討することによって、ICF・利用者主体・自立生活支援・QOLの向上など介護の目的に即した介護従事者として必要な視点から思考・判断することができる。			<b>主体的に学習に取り組む態度</b> 他科目に関して学んだ基本的知識や技術を生かして、サービス利用者一人ひとりに応じた適切な介護を実践するため、必要となる思考と実践のプロセスが介護過程であることを主体的に学ぼうとしている。			

※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技術は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学期	月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点	評価方法・項目等	評価の規準等
						知	思	態
学 期	4	介護過程の実践的展開	介護過程の実践的展開 介護過程の展開の理解 介護過程の展開について復習 事例をもとに各項目におけるアセスメントを展開	介護過程における目的と目標の意義について復習し、全体像を再確認できる。事例をもとに、アセスメントに必要な「事実」のとらえ方を復習しながら、わかりやすく整理することができる。	5	●	ワークシート【知】 介護計画書【態】	・介護過程の全体的像が理解できている。【知】 ・事例をもとに介護計画を主体的に立案しようとしている。【態】
	5		介護過程の実践的展開 「介護過程」展開の実際 事例をもとに介護過程を展開	アセスメントから利用者の生活課題(ニーズ)を導き、介護計画を立案することができる。 応用実習で受け持ち利用者の介護過程の展開ができるよう、実施と評価についてのまとめ方を理解できる。	8	●	授業觀察確認テスト【知】 プリント確認ファイル確認【態】	・介護過程の全体的像が理解できている。【知】 ・事例をもとに介護過程を展開できる。 ・応用実習で受け持ち利用者の介護過程の展開ができるようシートの準備ができる。【態】
6	6	中間考査	介護過程の実践的展開 応用実習（6月3日～7月8日（23日間））	応用実習における受け持ち利用者の介護過程を展開し、適切に記録に残すことができる。	1			
		介護過程の実践的展開			8	●	実習記録簿【態】 アセスメント用紙【思】	・応用実習における受け持ち利用者の尊厳を保持し、自立への支援となるような介護過程を展開する。【態】 ・介護過程の実際にについて適切に記録に残すことができる。【思】

学 期	月	单 元	学習内容・活動等	ね ら い	配当時間	評価の観点 知・思・態	評価方法 ・項目等	評価の規準等
							【思】	
1 学 期	7	高齢者に多い 症状・病気	I 高齢者の気持ちの理解 II 高齢者の様々な気持ち  I 高齢者に多い症状と日常生活における留意点 老年症候群・廃用症候群	高齢者自身の老化における思いや気持ちを高齢者の立場に立って考える。 高齢者に生じやすい症状について理解させ、高齢者の訴えの原因と特徴や基本的な対処方法を理解させる。	8	●	プリント確認 ファイル確認 【思】 確認テスト【知】	・心身機能の老化を遅らせる効果的方法を体験し実践できる。 【思】 ・国家試験の模擬問題を解くことにより、知識の確認ができる。 【知】
2 学 期	8	夏季休業						
	9	介護過程の 展開の実際	2 高齢者に生じやすい症状や病気 かゆみ・褥瘡 不眠 意識障害 発熱 脱水 深部静脈血栓症	高齢者特有の疾病について具体的に取り上げ、原因や発現機序、治療方法や経過・予後について基本的な内容を理解させる。	9	●	授業観察 プリント確認 確認テスト【知】	・高齢者に多い症状、観察項目など基本的な内容を理解し、専門用語で答えることができる。 【知】
	10	中間考査			1			
		介護過程の展開	応用実習における介護過程の展開 実習の振り返りからの介護過程の評価	応用実習における介護過程の展開を振り返り、整理することができる。また、その過程を自己評価することができる。	8	●	発表原稿【思】	・介護過程の展開を分かりやすく発表原稿にまとめることができる。
	11	介護過程の 展開の実際	介護過程実践報告のまとめ 事例研究発表会 まとめと復習  II 高齢者に多い病気と日常生活での留意点 A 糖尿病 B 動脈硬化症と心筋梗塞 C 高血圧 D 脳卒中 E 大腿骨頸部骨折・骨粗鬆症 F 肺炎	実践したことや介護過程の内容をわかりやすくまとめ報告、発表をすることができる。 介護過程の重要事項などの復習を行い、再確認することができる。 特に成人とは異なる経過や非定型症状を示すものについてその具体的な観察ポイントを理解し実践現場での介護に活かせるよう意識させる。	8	● ●	発表内容 発表態度【思】  相互評価【態】	・報告を分かりやすく整理し、発表することができる。 ・他者の学びを知ることにより、自分の学びを整理し、深めることができる。【思】 ・異常発見に関する変化について述べることが出来る。【態】
	12	介護過程と チームアプローチ	介護過程とチームアプローチ 介護過程とケアマネジメントの関係性 チームアプローチにおける介護福祉士の役割	各専門職の役割を理解し、チームアプローチの中で介護福祉士に期待される役割を考える。	5	●	ワークシート 【知】	・チームアプローチについて理解できている。【知】
		期末考査			1			
3 学 期	1	利用者の生活と 介護過程	利用者の生活と介護過程の展開 利用者のさまざまな生活と介護過程の展開	国家試験問題を解くことで、利用者のさまざまな生活を支える介護過程について考えることができる。	8	●	国試問題 自己評価【思】	・利用者のさまざまな生活を支える介護過程について考えようとすることができる。【思】
	2							
		学年末考査			1			
		合 計			70			

◇ 「介護過程」の総合評価における各観点の割合

知識・技術 50 % 思考・判断・表現 30 %

主体的に学習に取り組む態度

20 %

◇ 「介護過程」の総合評価における各評価方法・項目の割合

① 定期考査	30 %程度	② レポート・ノート	20 %程度
③ 実技・技術	30 %程度	④ 授業態度	20 %程度

教科	福祉	科目	介護総合演習	単位数	1 単位	学年	3	指導者	榎友愛梨 佐々由美子						
教科書	準教科書 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習（中央法規）	副教材													
科目の目標	・福祉の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通じて、知識と技術を身に付けさせる。【知】 ・地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の創造と発展に必要な資質・能力を育成するため、演習や事例研究を通じ、専門的な知識と技術の深化、総合化を図る。【思】 ・課題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。【態】														
目標達成に向けての取り組み	・介護実習と関連づけ、主体的に介護実習に取り組めるようとする。 ・生徒の興味・関心・進路・地域の実態に応じた演習テーマを主体的に考えることができるように配慮する。 ・介護実習を通じて生徒が自己の課題を考え、介護従事者としての意識を持てるようにする。														
評価の観点及び趣旨	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center; width: 33%;">知識・技術</th> <th style="text-align: center; width: 33%;">思考・判断・表現</th> <th style="text-align: center; width: 33%;">主体的に学習に取り組む態度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;">地域福祉や福祉社会について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けています。社会福祉や介護に関して学んだ基本的知識や技術を活用し、高齢者や障害者の介護において、総合的な援助について、適切な技能を身に付けています。</td> <td style="padding: 5px;">地域福祉や福祉社会に関する課題を見出し、職業人に求められる倫理観をもとに、社会福祉に関して学んだ基本的知識や技術を用い、科学的根拠に基づいた解決策を探求し、対人援助場面において、統合的に思考し判断できる力をつけています。</td> <td style="padding: 5px;">健全で持続可能な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や福祉社会の中の対人援助場面において主体的に実践しようとしている。また、社会福祉現場での実習を通じて介護専門職の職業観、勤労観を身に付けています。</td> </tr> </tbody> </table>									知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	地域福祉や福祉社会について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けています。社会福祉や介護に関して学んだ基本的知識や技術を活用し、高齢者や障害者の介護において、総合的な援助について、適切な技能を身に付けています。	地域福祉や福祉社会に関する課題を見出し、職業人に求められる倫理観をもとに、社会福祉に関して学んだ基本的知識や技術を用い、科学的根拠に基づいた解決策を探求し、対人援助場面において、統合的に思考し判断できる力をつけています。	健全で持続可能な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や福祉社会の中の対人援助場面において主体的に実践しようとしている。また、社会福祉現場での実習を通じて介護専門職の職業観、勤労観を身に付けています。
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度													
地域福祉や福祉社会について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けています。社会福祉や介護に関して学んだ基本的知識や技術を活用し、高齢者や障害者の介護において、総合的な援助について、適切な技能を身に付けています。	地域福祉や福祉社会に関する課題を見出し、職業人に求められる倫理観をもとに、社会福祉に関して学んだ基本的知識や技術を用い、科学的根拠に基づいた解決策を探求し、対人援助場面において、統合的に思考し判断できる力をつけています。	健全で持続可能な社会の構築を目指して自ら学び、地域福祉や福祉社会の中の対人援助場面において主体的に実践しようとしている。また、社会福祉現場での実習を通じて介護専門職の職業観、勤労観を身に付けています。													

※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技術は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学期	月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点	評価方法・項目等	評価の規準等
						知		
1学 期	4	実習計画の理解	○年間計画と実習の意義と目的 ・介護実習の内容 ・実習の準備	応用実習における介護実習の意義と目的を理解し、実習に対する心構えができる。	2	●	行動観察【態】 実習記録【知】	・実習の心構えができている。 ・事前学習や準備ができる。 【思】 ・施設の理解ができる。 ・記録の技術が身についている。 【知】
	5	介護実習の準備	○応用実習の意義と目的について ○介護実習の進め方 ・実習施設研究 ・健康管理（実習前健康診断） ・実習生としての基本事項 ・目標設定・実習記録 ・実習施設オリエンテーション	応用実習の意義と目的を理解し、知識と技術の統合ができる。  介護実習の進め方を復習し、応用実習における目標設定や実習記録の書き方について学ばせる。  実習施設における打ち合わせにおいて必要な質問を的確にことができる。	3	●	実習先打ち合わせ 記録 健康診断【思】  実習記録【知】	・実習の意義が理解できている。 【態】 ・実習の目標設定・記入方法の習得・実習先施設の内容が理解できている。 ・実習打ち合わせにおいて的確な質問ができる。 【思】 ・記録の際に適切な表現ができる。 【知】
		中間検査			1			
6	応用実習	○事例研究の目的と意義 ・事例研究の進め方 ・実習における取り組み ○応用実習 (介護実習 6月3日～7月8日) ・自立支援に向けた介護技術の提供や課題解決に向けた介護過程の展開	事例研究の目的と意義について正しく理解させる。  担当利用者のアセスメントを行い、その方の生活における課題を見つけることができる。	6	●	実習評価表 実習先指導者聞き取り【態】 実習先打ち合わせ 記録【知】  介護過程【思】	・実習に意欲的に取り組む。 ・実習の成果や課題を明確にし、基本的な介護の技術を身につけることができる。 【態】 ・担当利用者の疾患等心身の状態について理解できている。 【知】 ・担当利用者のアセスメントを的確に行い、課題を見つけることができる。 【思】	

学期	月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点	評価方法・項目等	評価の規準等
						知・思・態		
1 学期	7	応用実習	○実習の振り返りによる整理 ・実習記録 ・実習のお礼	介護実習の担当利用者に対して、介護過程の計画を立て、介護過程を展開することができる。 事例研究の目的と意義について再認識し、介護過程の展開をまとめること。	5	●	実習記録【思】	・介護過程の計画・実施・評価の一連の流れを記録できている。 ・実習の振り返りによるまとめができる。【思】
2 学期	8	夏季休業						
	9	事例研究	・事例研究の目的と意義について ・介護過程 ・文献研究（疾病・障害・薬の理解） ・事例研究のまとめ ・事例研究発表に向けての役割分担 ・事例研究発表	利用者の理解に必要な疾病や障害についての文献研究を行うことができる。事例研究発表に向けての各領域で学んだ知識と介護実習で学んだ技術を統合し、介護実践につなげさせる。 実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに自己の課題を明確にし、専門職としての態度を養わせる。 事例研究発表会を、チームで協力してスムーズに運営することができる。	7	● ● ●	実習記録【知】 実習評価表 感想文【態】  アセスメント表 介護過程 事例研究レポート【思】	・情報収集とアセスメントができている。【知】 ・自己の振り返りができ、課題が明確化している。【態】  ・事例研究を通じ、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させている。 ・自己の課題を明確にし、専門職としての態度を身につけようとしている。 ・事例研究発表を創意工夫して行うことができている。【思】
	10	中間考査			1			
	11	事例研究まとめ	・事例問題研究	事例研究発表を通して、質の高い介護実践や、エビデンスの構築につながる実践研究になるよう、他者の事例について考えたり、内容を検討したりすることで、実践研究の意義とその方法を理解させる。	4	● ● ●	事例研究レポート発表【知】 行動観察【態】 自己評価【思】	・自分の事例研究をわかりやすく情報機器を用いて発表することができる。【知】 ・事例研究発表会のチームで計画的にスムーズに運営できるよう協力できている。 ・学習に意欲的に取り組んでいる。【態】 ・さまざまな事例研究の内容を理解し、実践研究の意義とその方法を理解している。【思】
	12	期末考査			1			
3 学期	1	事例研究まとめ	・事例問題研究	一般的な事例を研究し、問題が起きたときの対応策を考えることができる	4	●	自己評価【思】	・自己の振り返りができ、課題が明確化している。 ・表現力や発進力が身についている。【思】
		学年末考査			1			
		合 計			3 5			

◇ 「介護総合演習」の総合評価における各観点の割合

知識・技術 30% 思考・判断・表現 30% 主体的に学習に取り組む態度 40%

◇ 「介護総合演習」の総合評価における各評価方法・項目の割合

① 定期考査	40%程度	② レポート・ノート	30%程度
③ 実技・技術	20%程度	④ 授業態度	10%程度

教科	福祉	科目	介護実習	単位数	5 単位	学年	3	指導者	榎友愛梨 亀島木綿子	佐々由美子 岸本仁美	原 佐緒理 新田 剛司	
教科書	準教科書 最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習（中央法規）											
科目的目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉の見方・考え方を働きかせ、多様な介護の場で実習を行い、実践的・体験的な学習活動を行うこと等を通して、適切な介護技術を身に付けさせる。【知】</li> <li>・福祉の他の専門科目で学んだ知識と技術を統合し、高齢者や障害者への総合的な介護活動等、根拠に基づいた介護及び支援を実践するために必要な資質・能力を育成する。【思】</li> <li>・サービス利用者や家族、介護従事者や他職種等様々な人との関わりの中で、社会人として必要なマナー、礼節について身に付けさせる。【態】</li> </ul>										
目標達成に向けての取り組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実習がサービス利用者の生活空間で行われるため、実習指導者と実習の目標を共有するなど連携を図りながら、各段階に応じた目標を明確にし、主体的かつ協働的に実習に取り組む態度が育成できるように配慮する。</li> <li>・多様な介護の場においてサービス利用者一人一人の生活や個性を尊重して実習できるよう、実習生としての礼儀、態度等を理解させる。</li> <li>・サービス利用者や家族とのコミュニケーション能力を高める技法の実践を行い、福祉に関する他の専門科目で学習した知識や技術を統合しながら介護を行うとともに、多職種協働における介護従事者の役割や職業倫理について理解させる。</li> </ul>										
評価の観点及び趣旨	知識・技術			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度					
	福祉施設における高齢者や障害者の介護や福祉制度のあり方について科学的に理解している。また、社会福祉や介護に関して学んだ基本的知識や技術を活用して、高齢者や障害者の総合的介護において、総合的な援助の技術を身に付けている。			社会福祉に関して学んだ基本的知識や技術を、高齢者や障害者の総合的介護における対人援助場面において、統合的に思考し、判断し、表現したりしている。			社会福祉に関して学んだ基本的知識や技術を、高齢者や障害者の総合的介護における対人援助場面において、主体的に実践しようとしている。また、介護実習を通じて介護専門職の職業観、勤労観を身に付けていく。					

※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技術は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学期	月	單 元	学習内容・活動等	ね ら い	配当時間	評価の観点 知 思 態	評価方法 ・項目等	評価の規準等
1 学期	4 5	事前健康診断	○胸部撮影 ○検便 細菌検査	介護現場における感染症の実態を取り上げ、感染予防の意義と必要性について理解させ、自身の健康管理を意識させる。		●	健康診断 実習前注意事項記録【態】	・所定の検診を受診できる。【態】
	6	事前学習  介護実習 (応用実習)	○実習施設事前打ち合わせ（実習リエンテーション）  ○担当利用者のアセスメントと介護計画立案 ○実習施設における介護技術の実践、コミュニケーションの実践、介護過程の実践的展開、多職種協働の実践、地域における生活支援の実践 (6月3日～7月8日 23日間)	これまでに学んできた知識と技術を活用し、介護過程の展開を通して担当利用者を理解し、本人主体の生活を自立を支援するための介護過程を学ばせる。  特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、障がい者支援施設において基本的な介護技術の実践を行い、多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解させるとともに、ケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ばせる。  利用者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ばせる。	175	●  ●	実習打ち合わせ記録【知】  実習態度【態】 アセスメントシート 介護計画書 レクリエーション計画 実習記録 実習評価表 自己評価【思】	・実習への心構えや事前準備ができる。 ・実習目標を理解している。 ・記録の基本的記入方法を習得している。【知】 ・利用者や職員とコミュニケーションは図られている。【態】 ・担当利用者の目標の設定、介護計画の立案、実施、評価、介護計画の修正など一連の介護過程を実践できる。 ・目標が達成できたか確認し評価できる。【思】
	7	事後学習	○介護実習の振り返り					
2 学期	8 ～ 12							
3 学期	12				175			
合 計								

◇「社会福祉基礎」の総合評価における各観点の割合

知識・技術 30 % 思考・判断・表現 30 % 主体的に学習に取り組む態度 40 %

◇「介護実習」の総合評価における各観点の割合 実施時数は法定時数以上を実施することがある。

① 定期考查 0 %程度 ②レポート・ノート 30 %程度 ③ 実技・技術 30 %程度 ④ 実習態度 40 %程度

教科	福祉	科目	こころとからだの理解	単位数	1	学年	3	指導者	原 佐緒理					
教科書	こころとからだの理解（実教出版）				副教材	最新介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解（中央法規出版）								
科目の目標		福祉の見方・考え方を働きかせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、介護を実践するための人間の理解に必要な資質・能力を育成することを目指す。 （1）サービス利用者の状況に合った自立生活の支援を行ううえで必要なこころとからだの基本的なしくみを習得させる。【知】 （2）発達課題や高齢者の健康について考えさせ、加齢に伴う心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解させる。【思】 （3）保健・医療職など多職種と連携しながら、サービス利用者や家族の心身の状況や環境を考えた介護福祉サービスを提供できる能力と態度を育成する。【態】												
目標達成に向けての取り組み		・「介護のため」という視点のもと理論と実践の融合を目指す。 ・人間の成長と発達の過程における身体的・心理的・社会的变化及び老化が生活に及ぼす影響を理解させる。 ・ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な健康や障害についての基礎的な知識を習得させる。												
評価の観点及び趣旨	知識・技術			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度							
	自立生活の支援に必要な人間の成長と発達について体系的に系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。			自立生活の支援に必要な人間の成長と発達に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。			健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、人間の成長と発達に基づいた自立生活の支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。							

※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技術は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学期	月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点 知 思 態	評価方法 ・項目等	評価の規準等
学 期	4	第4章 老化とともに こころとからだ の変化と生活	I 老化に伴う心身の変化の特徴	身体的機能、知的・認知機能、精神機能の老化の特徴を理解させる。 加齢による心身機能の変化が日常生活にどのような影響を及ぼすか理解させる。恒常性を維持する機能の防衛力、予備力、適応力、快復力の加齢による心身の変化を学ばせる。	3	●	授業観察・プリント確認【知】	・加齢に伴う心身機能の変化について理解し、正しい知識を身につけている。【知】
	5		II 老化に伴う心理的な変化と生活への影響		4	●	授業観察・発表・学習プリント【態】	・加齢に伴う心身の変化について、主体的に考察している。【態】
	6	中間考查			1			
	7	介護実習 6月3日～7月8日						
学 期	8	III 老化に伴う社会的な変化と生活への影響		ライフサイクルのなかの老年期とはどのような時期かさまざまな観点で理解させる。 社会における老年期の課題や介護を取り巻く現状を理解し、エイジズムについて考察させる。	5	●	学習プリント【知】	・老年期の特徴について理解し、正しい知識を身につけている。【知】
	9					●	授業観察・学習プリント【思】	・老年期の特徴や社会における諸課題を発見し、解決しようとしている。【思】
	夏期休業							
		第5章 高齢者と健康	I 健康寿命に向けての健康 健康の維持・増進を含めた生活の支援	健康になるための戦略であるヘルスプロモーションや健康と環境、食生活や基礎的な医薬品とその扱いなどについて理解する。	5	●	授業観察・学習プリント【思】	・高齢者の健康の維持・増進に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。【思】

学 期	月	单 元	学習内容・活動等	ね ら い	配当 時間	評価の観点 知 思 態	評価方法 ・項目等	評価の規準等
2 学 期	9		II高齢者に多い症状・疾患の特徴 1 症状・疾患の特徴	高齢者特有の疾病について具体的に取り上げ、原因や発現機序、治療方法や経過・予後について基本的な内容を理解させる。		●	学習プリント 【知】	・高齢者に多い疾病と症状について理解し、正しい知識を身につけている。【知】
		中間考查			1			
	10		2閉じこもり 3廃用症候群 4老年症候群		8	●	学習プリント 【知】	・症状の発現のしくみについて基本的な内容を理解し、専門用語で答えることができる。【知】
	11		III高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 1骨格系・筋系 2脳・神経系 3皮膚・感覚器系	高齢者に生じやすい症状について理解するとともに、高齢者の訴えの原因と特徴や基本的な対処方法を理解させる。特に成人とは異なる経過や非定型症状を示すものについてその具体的な観察ポイントを理解し実践現場での介護に活かせるよう意識させる。		●	学習プリント 【思】	・高齢者に生じやすい症状について理解し、日常生活への影響に関する諸問題を発見し、解決しようとしている。【思】
	12					●	学習プリント・授業観察【態】	・高齢者に生じやすい症状について理解し、日常生活への影響について主体的に考察している。【態】
		期末考查			1			
	3 学 期	1	III高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点 4循環器系 5呼吸器系 6消化器系 7腎・泌尿器系 8内分泌・代謝系 9歯・口腔疾患 10悪性新生物(がん) 11感染症 12精神疾患 13その他	特に成人とは異なる経過や非定型症状を示すものについてその具体的な観察ポイントを理解し実践現場での介護に活かせるよう意識させる。	6	●	国家試験模擬問題・学習プリント【思】	・様々な場面においての異常発見のための変化の観察ポイントについて気づき、解決しようとしている。【思】
	2							
		学年末考查			1			
		合 計			35			

◇「こことからだの理解」の総合評価における各観点の割合

知識・技術 50 % 思考・判断・表現 30 %

主体的に学習に取り組む態度 20 %

◇「こことからだの理解」の総合評価における各評価方法・項目の割合

① 定期考查 30 %程度

② レポート・ノート 30 %程度

③ 実技・技術 20 %程度

④ 授業態度

20 %程度

教科	福祉	科目	こころとからだの理解	単位数	1 単位	学年	3	指導者	岸本 仁美	
教科書	こころとからだの理解 (実教出版)	副教材	最新介護福祉士養成講座1.3認知症の理解 (中央法規出版) 認知症の事典 (成美堂出版)							
科目の目標	福祉の見方・考え方を働きかせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、介護を実践するための人間の理解に必要な資質・能力を育成することを目指す。 (1) サービス利用者の状況に合った自立生活の支援を行ううえで必要なこころとからだの基本的なしくみを習得させる。【知】 (2) 認知症課題や高齢者の健康について考えさせ、加齢に伴う心身の機能低下や認知症が生活に及ぼす影響について理解させる。【思】 (3) 保健・医療職など多職種と連携しながら、サービス利用者や家族の心身の状況や環境を考えた介護福祉サービスを提供できる能力と態度を育成する。【態】									
目標達成に向けての取り組み	(1) 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得する。 (2) 認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の認知症ケアの課題解決能力を育成する。 (3) 地域の中で中心となって認知症の人々を支える能力と意識・態度を身に付けています。									
評価の観点及び趣旨	知識・技術 認知症に関するその原因疾患やそれぞれの症状や特性についての基礎的・基本的な知識を身につけ、介護現場における認知症の利用者の実際と、対応するための技能が身につけ、さらに社会的支援についての知識を習得する。	思考・判断・表現 認知症介護における基礎的・基本的な知識・科学的根拠をもとに利用者に必要とされる介護内容を考え、課題を把握し明確に表現する能力と、その課題を解決するための方策として、社会的支援に結びつけることができる能力を身に付けています。	体的に学習に取り組む態度 加齢により発症することの多い認知症ケアに対して介護福祉職として積極的に理解しよう関わろうとする態度と、専門的な支援だけにとどまらず、地域の中で中心となって認知症の人々を支える能力と意識・態度を身に付けています。							

※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技術は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学期	月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点 知 思 態	評価方法 ・項目等	評価の規準等
1 学 期	4	障害者（認知症）の生活と介護（支援）	○認知症に伴う生活への影響と認知症ケア ・パーソンセンタードケア ・認知症の人へのアプローチ (ユマニチュード、バリデーション、回想法、リアリティオリエンテーション)	・認知症の人の生活および家族や社会との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践につなげる。	3	● ● ●	授業観察【思】 ワークシート【態】 確認テスト【知】	・認知症の原因疾患とその症状や特性を理解している。【知】 ・認知症の人の生活困難を理解している。【態】 ・利用者の介護ニーズを考えることができる。【思】
	5		・認知症の人の介護過程 ・重症疾心身障害者の介護過程	・施設利用者の生活に関する課題やニーズについて理解させるとともに、障害者を支えるための介護の在り方について考えさせる。	4	● ● ●	授業観察【思】 ワークシート【態】 確認テスト【知】	・認知症の人への介護過程の展開例から理解する。【態】 ・事例（認知症利用者）の介護計画を立案できる。【思】
	中間考查		応用実習 6月3日～7月8日		1		考查	
6	7	障害者（認知症）の生活と介護（支援）	○介護現場におけるサービスの展開 ・介護実習で実際に提供されるサービスについて根拠法やサービスの展開	・施設で提供されていた介護保険制度や障害者自立支援制度などにおける介護福祉サービスを取り上げ、そのサービスの具体的な内容や利用方法について理解させる。	1	● ●	ワークシート【知】 レポート【思】	・介護保険制度、障害者自立支援制度などのサービス内容を理解している。【知】 ・ニーズとサービスを結びつけて考えることができる。【思】
	8	夏季休業						

学 期	月	单 元	学習内容・活動等	ね ら い	配当 時間	評価の観点 知 思 態	評価方法 ・項目等	評価の規準等
2 学 期	9	認知症支援の実際	・実習利用者の理解（高齢者・認知症の障害者） ・認知症高齢者を支える介護の在り方 家族への支援について ・認知症の人の医学・行動・心理的理	・施設利用者の生活に関する課題やニーズについて理解させ、障害者を支えるための支援について国際生活機能分類（ICF）などを取り上げ、サービス利用者の自己決定や個別化など自立に向けた介護について理解させる。 ・認知症の人の行動の背景にある理由に着目し、医学的知識をふまえた認知症の人の心理行動症状について理解させる。 ・認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援について理解させる。	4	●	授業観察【態】 アセスメント表・ワークシート【思】 授業観察【態】 ワークシート・事例からの考察【思】 確認テスト【知】	・実際の利用者の状態を観察できる。【態】 ・利用者の情報から分析・統合することで情報を整理できる。【思】 ・認知症の症状を理解し、どのようなケアが必要かを考えることができる。【思】 ・認知症であっても、その人の尊厳を守る視点を持つことができる。【態】
	10				4	●		
		中間考查			1		検査	
	11	認知症の人の生活理解	・認知症の人への生活支援技術と実践のポイント	・さまざまな介助の際に起こりうる具体的な事例を取り上げ、高齢者の日常生活に関する課題やニーズについて理解させるとともに、高齢者を支えるための介護の在り方について考えさせる。	5	●	授業観察・ひもときシート【思】 確認テスト【知】	・食事や排泄、入浴、更衣等の介助の際に出現しやすい認知症の症状とその背景や原因について理解し表現している【思】 ・日常の介助の際に出現する症状への対応方法が理解できている。【知】
3 学 期	12	認知症に関する制度・関係機関	・認知症対策におけるさまざまな法制度やサービス（専門的支援と地域でのサポート） ・連携と協働	・認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や、多職種連携・協働による支援野基礎的な知識を理解させる。	6	●	確認テスト【知】 授業観察【態】	・さまざまな法制度とサービスについて理解している。【知】 ・認知症へ対応するフォーマル・インフォーマルサービスについて理解し、自らも関わろうとする態度が備わっている。【態】
		期末考查			1		検査	
	1		・認知症の人の体験 ・介護者自身の体験 ・家族へのレスパイトケア ・家族へのエンパワメント	・認知症によって引き起こされる機能の変化や生活障害、認知症ケアなどについて理解させるとともに、家族への支援や地域における支援体制の在り方について、特に近年深刻化している若年性認知症について、事例等を参考にして考えさせる。	4	●	事例演習【思】 授業観察【態】	・認知症（特に若年性認知症）の人の手記や家族等の介護者の体験談等の事例からその実際と課題を認識できている。【思】 ・介護福祉士として働く上での視点を持つことができる。【態】
		学年末考查（国試対策 総合問題）			1		検査	
		合 計			3 5			

◇ 「こころとからだの理解」の総合評価における各観点の割合

知識・技術 50 % 思考・判断・表現 30 %

主体的に学習に取り組む態度 20 %

◇ 「こころとからだの理解」の総合評価における各評価方法・項目の割合

① 定期考查 70 %程度 ② 授業への取組態 10 %程度

③ 提出物 10 %程度 ④ 小テスト・課題 10 %程度

教科	福祉	科目	こころとからだの理解	単位数	1	学年	3	指導者	佐々 由美子
教科書	こころとからだの理解（実教出版）								
科目的目標	(1) サービス利用者の状況に合った自立生活の支援を行ううえで必要なこころとからだの基本的なしくみを習得させる。(知識・技能) (2) 発達課題や高齢者の健康について考えさせ、加齢に伴う心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解させる。(思考・判断・表現) (3) 保健・医療職など多職種と連携しながら、サービス利用者や家族の心身の状況や環境を考えた介護福祉サービスを提供できる能力と態度を育成する。(態度)								
目標達成に向けての取り組み	(1) 教科書での学習を基本として、「こころとからだの理解」の内容にもとづいた自立生活の支援に必要な、深い理解を伴った知識・技能を習得する。 (2) 「考えてみよう」や編末問題の「まとめてみよう」などを実践する活動を通して主体的に判断し、よりよく問題を解決する。 (3) 編末問題などで学習の理解到達度を確認し、ワークシートなどを活用しながら学習したことを自分の言葉で表現する。								
評価の観点及び趣旨	<b>知識・技術</b> 自立生活の支援に必要なこころとからだについて体系的・系統的に理解すると共に、関連する技術を身につけている。			<b>思考・判断・表現</b> 自立生活の支援に必要なこころとからだに関する課題を発見し、介護従事者としての倫理観を踏まえて、科学的な根拠にもとづいて創造的に解決する力を身につけている。			<b>主体的に学習に取り組む態度</b> 科学的根拠にもとづいた生活支援の実践をめざして自ら学び、こころとからだにもとづいた自立生活の支援に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につけている。		

※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技能は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学期	月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点			評価方法・項目等	評価の規準等
						知	思	態		
1 学 期	4	生活機能障害の理解	I 障害のある人の心理	精神障害の種類と原因、関連する症状について学び、生活上の困難について考察する。	3	●		●	プリント確認(知) 授業観察	・精神障害を理解し、正しい知識を身につけている。(知) ・精神障害者の生活上の困難に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。
	5		II 精神障害							
	6	中間考査	III 知的障害	知的障害の定義と特性を理解し、言語発達の遅れや発達の遅れにかかわる生活上の困難について考察する。	4	●		●	プリント確認(知) 授業観察	・知的障害を理解し、正しい知識を身につけている。(知) ・知的障害者の生活上の困難に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。
	7		IV 発達障害	発達障害の定義と特性を理解し、障害が日常生活に及ぼす影響について考察する。	1	●		●	確認テスト(知) 授業観察	・発達障害を理解し、正しい知識を身につけている。(知) ・発達障害者の生活上の困難に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。
2	8	介護実習	応用実習（6月3日～7月8日）	実習で出会った利用者に対して専門的な視点でアセスメントできるよう既習事項を統合させる。	4		●		プリント確認 介護実習状況とアセスメントシート	・専門的な視点で既習事項を統合させてアセスメントできている。
		期末考査	内容理解		1		●			
2	8	夏季休業課題	人体の構造と機能、系統別疾患等の既習知識に関するまとめと問題				●		国家試験問題(過去問)(知)	・2学期の課題テストによって確認する。(知)

学期	月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点	評価方法・項目等	評価の規準等	
						知・思・態			
2 学 期	9	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援	I 障害のある人の心理	医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解する。障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援について考える。	7	●	プリント等確認 課題プリントにより各内容のまとめ(知) 授業観察(思考)	・医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解することができます。(知) ・高次脳機能障害について理解し、正しい知識を身につけ、生活上の困難に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。(思考) ・難病について理解し、正しい知識を身につけ、生活上の困難に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。(態度)	
			II 高次脳機能障害	高次脳機能障害の種類と症状を理解し、障害が日常生活に及ぼす影響について考察する。		●			
			III 難病	難病の種類と症状を理解し、難病が日常生活に及ぼす影響について考察する		●	演習一クシート(態度)		
	10		中間考査		1		中間テスト(知)		
			I アセスメントと日常生活への影響	障害のある人の特性を踏まえたアセスメントと日常生活への影響について理解し、自立支援に必要なストレングスの視点について考察する。		●	確認テスト(知)	・障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解することができている。(知) ・障害に伴う日常生活への影響に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。(思考)	
			II ストレングスの視点			●	演習ワークシート(思考)		
11	11				3	●	確認テスト(知)	・障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解することができている。(知)	
	12		期末考査 (障害の理解 全般の知識確認)		1				
3 学 期	1	障害と地域生活支援	I 障害のある人の地域生活上の困難と支援	ピアサポートを含むチームアプローチについて理解し、具体例を通して生活上の困難と支援について考察する。	3	●	確認テスト(知)	・障害のある人の地域サポート体制について理解し、正しい知識を身につけている。(知) ・障害のある人の地域におけるサポート体制に関する諸課題を発見し、思考している。(思考) ・家族への支援に関する諸課題を発見し、解決しようとしている。(態度)	
			II 障害のある人の地域サポート体制	障害者が地域で暮らしていくために障害者の主体性を尊重しながら、地域行政、関係機関や地域自立支援協議会などと連携して、障害者の生活を支援するサポート体制づくりについて学ぶ。		●	ファイル確認(思考)		
			III 家族への支援	家族への心理的支援や障害受容への支援、レスパイトケアなど家族への支援について学ぶ。		●	授業観察(態度)		
	2		学年末考査 (障害の理解 全般の知識確認)		1	●	学年末テスト(知)	・問題の 70 %を理解できている。(知)	
			合計		35				

◇ 「こころとからだの理解」の総合評価における各観点の割合

知識・技術 50% 思考・判断・表現 30%

主体的に学習に取り組む態度 20%

◇ 「こころとからだの理解」の総合評価における各評価方法・項目の割合

①定期考査 50%程度 ②レポート・ノート 25%程度 ③実技・技術 10%程度 ④授業態度 15%程度

教科	福祉	科目	福祉情報	単位数	1 単位	学年	3	指導者	榎友愛梨 岸本仁美	
教科書	福祉情報活用（実教出版）									
科目的目標		<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させる。【知】</li> <li>・情報処理に関する知識と技術を習得させ、福祉の各分野で必要な情報及び情報手段を選択する能力を身に付けさせる。【思】</li> <li>・福祉の各分野における I C T の活用方法について理解し、主体的に情報処理機器を活用する能力と態度を育てる。【態】</li> </ul>								
目標達成に向けての取り組み		<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉に関する記録、事例研究におけるプレゼンテーション、社会福祉情報の検索等についての情報処理能力を高めることができるよう学習させる。</li> <li>・情報機器や情報ネットワークを活用する基礎的技術を身につけ、利用者の生活支援ができるように体験的に学習させる。</li> </ul>								
評価の観点及び趣旨	知識・技術			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
	現代及び今後の社会福祉に関する事柄に対する関心を高め、情報処理機器を活用することにより、福祉制度や福祉サービスの実際を理解する。			現代の社会福祉に関する課題を見いだし、他の福祉科目で学習した内容や各種資料を活用し、情報機器とプログラミング的思考用いて発表することができる。			社会福祉に関する事柄に対する関心を高め、情報処理機器を活用することにより社会福祉の向上を図ろうとする態度を身に付けている。			

※上記「評価の観点」については、次の表においては知識・技術は「知」、思考・判断・表現は「思」、主体的に学習に取り組む態度は「態」と表示しています。

学期	月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点 知 思 態	評価方法 ・項目等	評価の規準等
1	4	情報の処理	日本語ワードプロセッサによる情報の処理 ワープロの利用	ワープロを利用し、画像の挿入や、文字や配色の工夫等を行うことで、様々な文書をわかりやすく作成することができるようさせる。	4	●	課題作成【知】	・正確でスピーディな文書作成ができる。【知】
学 期	5	情報の収集・処理	通信ネットワークを利用した情報の収集とその活用 インターネットの概要 インターネットの利用 情報の検索と収集 情報収集における問題点 プレゼンテーションソフト利用した情報の発信 プレゼンテーションソフトの概要 プレゼンテーションソフトの利用	インターネットについて知ることにより、インターネットを利用し、情報の検索と収集の方法を習得させる。また、情報収集における問題点や注意点について理解させる。  プレゼンテーションソフトを利用し、他者にわかりやすい資料作成や、見やすい工夫について考え、基本的機能を利用し、操作を習得させる。	4	●	机間巡回【思】  課題作成【知】	・情報入手の方法を考え、適切に処理できる。 ・情報活用上のマナーや人権を尊重できる。 ・w e b ページを参照できる。【思】 ・プレゼンテーションの意味を理解する。 ・プレゼンテーションソフトの基本的機能を理解し、操作することができる。【知】
6 7	6 7	情報の収集・処理	介護実習（応用実習） 6月3日～7月8日					
2	8	夏季休業						
学 期	9 10	情報の処理・分析・発信	応用実習における事例研究発表 プレゼンテーション計画 スライドの作成 発表原稿の作成	プレゼンテーションソフトを利用し、他者にわかりやすい資料作成や、見やすい工夫について考え、事例研究についてのプレゼンテーション資料を作成し、発表させる。	4	●	ワークシート【思】 課題作成  ● 机間指導【態】	・多数の人が理解しやすいプレゼンテーションスライドが作成できる。【思】 ・主体的に研究準備ができる。【態】

学期	月	単元	学習内容・活動等	ねらい	配当時間	評価の観点		評価方法・項目等	評価の規準等
						知	思		
2 学 期	11	情報の収集・処理・発信	プレゼンテーションのマナー パワーポイントを用いた事例発表会	事例研究に向けて、参観者にわかりやすく自分の事例研究を発表させる。事例研究発表会に向け、チームで協力し情報機器の操作を行い、スムーズに運営させる。	10	●	●	パワーポイントスライド【知】 机間巡回【態】 発表原稿 発表 他者評価 自己評価【思】	・プレゼンテーションのマナーを守り、分かりやすく発表ができる。【知】 ・介護実習の内容に関連させ、応用実習の事例研究のまとめを積極的に行おうとする。【態】 ・作成したスライド、原稿、各収集情報をまとめ、整理し、自分の事例研究をわかりやすく情報機器を用いて発表することができる。 ・事例研究発表会のチームで計画的にスムーズに運営できるよう協力できている。【思】
						●	●		
	12	福祉とコンピュータ	福祉サービスにおけるコンピュータの活用 コンピュータを活用した自立生活支援	ケアプランの作成や、訪問看護と遠隔医療、情報の発信や災害とコンピュータ等についての知識を得ることにより、コンピュータが多くの福祉サービスに関わっていることに気づくと共に、適切なコンピュータの利用について理解させる。	5	●	ワークシート 机間巡回【知】	・多くの福祉サービスが、コンピュータなどどのように関わっているか、事例を通して理解できる。【知】	
	期末検査				1				
	3 学 期	1	国家試験対策とコンピュータ	学習で得た知識の統合	介護福祉士国家試験の設問を通し、問題が起きたときの対応策や病気について調べたり考えたりすることを通し、情報処理と福祉の関わりについて考えさせる。	5	●	自己評価【態】	・学習に意欲的に取り組むことにより、自分の生活にコンピュータを活用しようとする。【態】
学年末検査						1			
合計						35			

◇ 「福祉情報」の総合評価における各観点の割合

知識・技術 40% 思考・判断・表現

30%

主体的に学習に取り組む態度

30%

◇ 「福祉情報」の総合評価における各評価方法・項目の割合

① 定期検査  
③ 実技・技術

30%程度  
30%程度

② レポート・ノート  
④ 授業態度

20%程度  
20%程度